

J-HOP 全国薬剤師・在宅医療支援連絡会

薬剤師ボランティア 必携資料集

※目次の該当行をクリックすると、そのページへジャンプします

【 注意 】

この資料集は、東日本大震災の発生に伴い、J-HOP（全国薬剤師・在宅療養支援連絡会）内のメーリングリストにて寄せられた情報を集積したものです。

当然ながら、日本国内にて適用される各法を遵守することを前提としており、当該資料をもって法を逸脱する解釈を行うことは、決して許されません。

J-HOP ICT委員会

2011/05/12

Ver3.2

目次

§ 1 : 薬剤師ボランティア 推奨携帯品一覧

必ず携帯すべきもの（薬剤師に限らない）	1
必ず携帯すべきもの（薬剤師必携）	1
余裕があれば、追加で携帯すべきもの	2

§ 2 : 閲覧・ダウンロード可能資料一覧

閲覧・ダウンロード可能資料一覧.....	3
----------------------	---

§ 3 : 連絡先一覧

薬剤師会一覧.....	9
関連団体連絡先.....	14
その他連絡先.....	15

§ 4 : 被災地へ支援に向かうにあたっての注意

「支援フェイズ」について.....	17
災害発生直後の装備.....	18
災害発生後 1～2 週間.....	18
災害発生後 3～4 週間.....	19
災害発生後 1 ヶ月～.....	19

§ 5 : 被災者および被災患者へのケアと対応

避難所への掲示等に利用できるもの.....	20
-----------------------	----

§ 6 : 放射能に関係する資料・情報

原子力施設での臨界事故があった場合、どうしてヨウ素剤を服用するのか.....	21
--	----

原発事故対策.....	21
ヨウ素剤服用方法について.....	21
安定ヨウ素剤 取扱いマニュアル その1	21
安定ヨウ素剤 取扱いマニュアル その2	21
放射線の正しい知識.....	21
水道水の放射能汚染について	21

§ 7 : 麻薬に関する資料・情報

麻薬の取り扱いについて その1	22
麻薬の取り扱いについて その2	22
麻薬の取り扱いについて その3	22
麻薬の取り扱いについて その4	23
麻薬の取り扱いについて その5	23
麻薬の取り扱いについて その6	23

§ 8 : 薬剤師としての活動で有用な資料等

薬剤師ボランティアの応募要項	24
経口補水塩の作り方.....	24
消毒薬の組成について	24
インスリン製剤の入手について	24
栄養剤が入手困難な場合の対処法.....	24
食品成分表データ（抜粋）	25
冷所保存が必要な製品の安定性について.....	25
避難民の排尿ケアについて.....	25
被災者の治療薬確認票（調査票）	25
災害時の調剤記録票.....	26
薬剤師の災害時活動マニュアル（日本薬剤師会作成）	26

被災地状況把握（宮城県薬剤師会 災害掲示板）	26
薬包紙の折り方	26

§ 9 : 薬剤師に限らない活動で有用な資料等

内科医のための災害医療活動	27
被災者の体調ケアについて	27
随時更新・インフラ情報（物資・炊出し・給水・公衆電話ほか）	27
嚙下障害患者対策	27
東日本巨大地震 自動車・通行実績情報マップ	28
被災した乳幼児・児童と、その保護者のケアに関する資料	28
被災者への心理的支援 その1	29
被災者への心理的支援 その2	29
認知症患者とその家族への支援ガイド	30
お薬手帳の案内（一般用）	30
被災地の医療スタッフへの災害掲示板の案内	30
介護食等販売・宅配サイト	30
被災地からの情報提供	30
災害被害地におけるプライマリ・ヘルス・ケア	30
被災者への睡眠に関するチラシ	31
被災者および一般の方への、災害時に備えた医薬品管理の啓発資料	31

§ 10 : 災害支援報告

活動報告カレンダー	33
災害支援活動報告 01	35
災害支援活動報告 02	35
災害支援活動報告 03	37
災害支援活動報告 04	38

災害支援活動報告 05	39
災害支援活動報告 06	39
災害支援活動報告 07	40
災害支援活動報告 08	41
災害支援活動報告 09	43
災害支援活動報告 10	43
災害支援活動報告 11	45
災害支援活動報告 12	46
災害支援活動報告 13	46
災害支援活動報告 14	47
災害支援活動報告 15	51
災害支援活動報告 16	55
災害支援活動報告 17	56
災害支援活動報告 18	57
災害支援活動報告 19	58
災害支援活動報告 20	62
災害支援活動報告 21	62
災害支援活動報告 22	62
災害支援活動報告 23	63
災害支援活動報告 24	65
災害支援活動報告 25	66
災害支援活動報告 26	67
災害支援活動報告 27	67
災害支援活動報告 28	69
災害支援活動報告 29	72

災害支援活動報告 30	73
災害支援活動報告 31	73
災害支援活動報告 32	74
災害支援活動報告 33	74
災害支援活動報告 34	75
災害支援活動報告 35	75
災害支援活動報告 36	76
災害支援活動報告 37	77

§1：薬剤師ボランティア 推奨携帯品一覧

被災地への支援に向かうに当たり、携帯する事が推奨される物品の一覧です。既に被災地にて支援活動を行った薬剤師による選別も、加わっております。

チェックボックスを付けているので、印刷して出発前のチェックにお使い頂けます。なお、一覧は「必ず携帯すべきもの」、「余裕があれば追加で携帯すべきもの」の2つに分けております。

必ず携帯すべきもの（薬剤師に限らない）

- | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 衣服（兼防寒） | <input type="checkbox"/> ウエットティシュー | <input type="checkbox"/> 現金 |
| <input type="checkbox"/> エマージェンシーシート | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> カメラ |
| <input type="checkbox"/> 携帯電話 | <input type="checkbox"/> 携帯充電器※1 | <input type="checkbox"/> コート |
| <input type="checkbox"/> 食糧※3 | <input type="checkbox"/> 生活必需品※4 | <input type="checkbox"/> 洗面具 |
| <input type="checkbox"/> 現地の地図 | <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ | <input type="checkbox"/> ティッシュ・トイレットペーパー |
| <input type="checkbox"/> 電池※5 | <input type="checkbox"/> 水不要のシャンプー等※6 | <input type="checkbox"/> 長ズボン |
| <input type="checkbox"/> 寝袋※7 | <input type="checkbox"/> はさみ | <input type="checkbox"/> 筆記用具 |
| <input type="checkbox"/> 防寒具 | <input type="checkbox"/> 防寒用靴下 | <input type="checkbox"/> 身分証明（保険証、運転免許証等） |
| <input type="checkbox"/> マスク※7 | <input type="checkbox"/> リュック等 | <input type="checkbox"/> レインスーツ |

※1：携帯電話の充電器は、電源コンセントを利用できるものと、電池交換式の2種類の持参を推奨。

※2：常備薬のうち、整腸剤は生活や水の変化に備え、行く前から服用を継続する。また被災地ではインフルエンザが流行中であるため、イナビル等の持参が望ましい。

※3：食糧については、[§4](#)にて詳細を説明。

※4：生活必需品とは、下着や最低限の衛生用品を指す。

※5：電池のほか、電池サイズを交換できるアダプターがあれば持参。また、単1、単3以外の電池も少量あればなお良い。

※6：被災地では飲料水すら確保が難しい。ウォーターレスのシャンプー・リンスが存在するので、携帯を強く推奨する。

※7：寝袋は、マイナス20度対応製品が理想。

※8：マスクはホコリが多い現場に備え、「DS2 マスク」や「N95 マスク」が理想。

必ず携帯すべきもの（薬剤師必携）

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> アレルギー等チェックアンケート用紙 | <input type="checkbox"/> 印鑑 |
| <input type="checkbox"/> GE と先発品の照合ツール※9 | <input type="checkbox"/> 規制対象外車両通行証明書※10 |
| <input type="checkbox"/> 携帯電子端末※11 | <input type="checkbox"/> 書籍：実践 妊婦と薬 |
| <input type="checkbox"/> 書籍：新 小児薬用量 | <input type="checkbox"/> 小児薬用量一覧表※12 |
| <input type="checkbox"/> ネームプレート | <input type="checkbox"/> ホチキス |
| <input type="checkbox"/> 簡易懸濁法の実践※13 | <input type="checkbox"/> 簡易懸濁法の実践※13 |
| <input type="checkbox"/> バインダーリポート用紙 | <input type="checkbox"/> 胸章※14 |
| <input type="checkbox"/> ポケット Wi-Fi ルータ※15 | <input type="checkbox"/> 腕章※14 |

※9： §2【資料17、38、39】参照。

※10： ボランティア薬剤師が使用する車両等に関する証明書等の配布・管理は、2011年4月1日より日本薬剤師会が行っている。詳細は所属の都道府県薬剤師会へ。

※11： 携帯電話やノートパソコン、iPad、スマートフォンなど、PDFなどの電子資料を閲覧できる電子端末。

※12： §2【資料18】参照。自身の手で編集後、一覧表を作成し、ラミネートして持参するとDrも使用できて便利。

※13： §2【資料15】参照。

※14： ボランティア薬剤師が使用する腕章・胸章の配布・管理は、2011年4月1日より日本薬剤師会が行っている。詳細は所属の都道府県薬剤師会へ。

※15： 携帯でしか使えない通話・インターネット回線を、パソコンなどの機器でも使えるようにする小型携帯端末。Docomo、au、softbankなど携帯がつながる場所であれば、この機器を通じていつでもインターネットに接続可能。可能であれば、複数台同時接続タイプを推奨。

余裕があれば、追加で携帯すべきもの

- | | | | |
|---|---|---------------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> アクリル板※16 | <input type="checkbox"/> 安全靴 | <input type="checkbox"/> ウエストバッグ | <input type="checkbox"/> うがい薬 |
| <input type="checkbox"/> 上履き※17 | <input type="checkbox"/> マジック各色 | <input type="checkbox"/> 各種管理フォーマット用紙 | |
| <input type="checkbox"/> 自転車 | <input type="checkbox"/> 感染症診療の手引き※18 | | |
| <input type="checkbox"/> 薬袋 | <input type="checkbox"/> 手袋（ゴムやプラスチック製） | <input type="checkbox"/> シリンダー | |
| <input type="checkbox"/> 書籍：授乳婦と薬 | <input type="checkbox"/> 書籍：シロップ剤の配合変化 | | |
| <input type="checkbox"/> 書籍：錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報 | <input type="checkbox"/> 殺菌消毒剤※19 | | |
| <input type="checkbox"/> 書籍：錠剤・カプセル粉砕ハンドブック | <input type="checkbox"/> スパーテル | | |
| <input type="checkbox"/> 書籍：治療薬マニュアル | <input type="checkbox"/> 体温計 | <input type="checkbox"/> 手指消毒薬 | |
| <input type="checkbox"/> 付箋 | <input type="checkbox"/> 防災靴 | <input type="checkbox"/> 防災服 | <input type="checkbox"/> 防災用具 |
| <input type="checkbox"/> 帽子 | <input type="checkbox"/> 虫除け | <input type="checkbox"/> 滅菌ガーゼ | <input type="checkbox"/> 薬杯 |
| <input type="checkbox"/> 薬包紙 | <input type="checkbox"/> ラジオ | <input type="checkbox"/> ランタン | <input type="checkbox"/> 輪ゴム |
| <input type="checkbox"/> ボディーペーパー | | | |

※16： 軟膏板の代用品として利用可能。この場合は黒が望ましい。

※17： 体育館などでの仕分け作業が考えられる場合は、スリッパより上履きが望ましい。

※18： §2【資料01】参照。

※19： ピューラックスやミルトンが望ましい。

§ 2 : 閲覧・ダウンロード可能資料一覧

J-HOP ホームページおよびその他 Web サイトより、閲覧またはダウンロードが可能な資料の一覧です。J-HOP ホームページの仕様上、一旦ログインしてからでないとダウンロードができない資料があります。

閲覧・ダウンロード可能資料一覧

※★印：クリックする事で、インターネットが使えない環境でも資料閲覧が可能（完全版のみ）

【資料 00】 J-HOP 災害情報掲示板（医療関係者向け）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/bluesbb/topic.php?top=2>

【資料 01】 感染症診療の手引き

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=31>

URL : <http://www.kenkyuu.net/id/> （HTML 版）

【資料 02】 腎機能低下患者への投与に注意（内服）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=29>

【資料 03】 Ccr 推算グラフ

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=28>

【資料 04】 災害時記録・調剤記録など

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=27>

【資料 05】 ヨウ素剤服用方法 hku02

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=26>

【資料 06】 災害掲示板の案内（医療スタッフ用）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=25>

【資料 07】 口腔ケア資料

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=24>

【資料 08】 被災時のお薬手帳について

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=23>

【資料 09】 避難民の排尿ケアチラシ（スタッフ用）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=21>

【資料 10】 避難民の排尿ケアチラシ（被災者用）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=22>

【資料 11】 放射性ヨウ素

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=20>

【資料 12】 放射線の正しい知識

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=19>

【資料 13】 冷所保存が必要な製品の安定性について

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=18>

【資料 14】 エンシュアのトロミ

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=1&lid=16>

【資料 15】 簡易懸濁法の実践

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=1&lid=10>

【資料 16】 治療薬確認票（栃木県）-大澤改

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=1&lid=35>

【資料 17】 治療薬マニュアル WEB 版（無料開放） ID : user@iry Pass : shien3

URL : https://top.islib.jp/bcs/li/login.cgi?rm=login&next_path=/k_shinryo/

【資料 18】 小児薬用量一覧表

URL : <http://j-hop.geo.jp/pediatricdose.xls>

【資料 19】 薬品画像一覧ファイル(CHM ファイル)

URL : <http://j-hop.geo.jp/Help1.chm>

【資料 20】 画像ファイル：不整脈用剤（ハイリスク分類の一部のみ直接閲覧可）

URL : <http://j-hop.geo.jp/c.html>

【資料 21】 画像ファイル：抗てんかん剤（ハイリスク分類の一部のみ直接閲覧可）

URL : <http://j-hop.geo.jp/d.html>

【資料 22】 画像ファイル：血液凝固阻止剤（ハイリスク分類の一部のみ直接閲覧可）

URL : <http://j-hop.geo.jp/e.html>

【資料 23】 画像ファイル：ジギタリス製剤（ハイリスク分類の一部のみ直接閲覧可）

URL : <http://j-hop.geo.jp/f.html>

【資料 24】 画像ファイル：テオフィリン製剤（ハイリスク分類の一部のみ直接閲覧可）

URL : <http://j-hop.geo.jp/g.html>

【資料 25】 画像ファイル：精神神経用剤（ハイリスク分類の一部のみ直接閲覧可）

URL : <http://j-hop.geo.jp/h.html>

【資料 26】 画像ファイル：糖尿病用剤（ハイリスク分類の一部のみ直接閲覧可）

URL : <http://j-hop.geo.jp/i.html>

【資料 27】 画像ファイル：膵臓ホルモン剤（ハイリスク分類の一部のみ直接閲覧可）

URL : <http://j-hop.geo.jp/j.html>

【資料 28】 製剤識別情報（PDF）：数字順（0 ～ 100）

URL : http://j-hop.geo.jp/captab_num_0-100.pdf

【資料 29】 製剤識別情報（PDF）：数字順（101 ～）

URL : http://j-hop.geo.jp/captab_num_101-.pdf

【資料 30】 製剤識別情報（PDF）：ABC 順（A ～ R）

URL : http://j-hop.geo.jp/captab_alp_A-R.pdf

【資料 31】 製剤識別情報（PDF）：ABC 順（S ～ Z）

URL : http://j-hop.geo.jp/captab_alp_S-Z.pdf

【資料 32】 製剤識別情報 (PDF) : 会社マーク・カタカナなど

URL : http://j-hop.geo.jp/captab_mark_kana.pdf

【資料 33】 製剤識別情報 (PDF) : 全ファイル結合版

URL : http://j-hop.geo.jp/captab_all.pdf

【資料 34】 薬品情報確認用ファイル R(CHM ファイル)

URL : <http://j-hop.geo.jp/Help2R.chm>

【資料 35】 医学書院 : 震災関連記事 (無料公開)

URL : <http://www.igaku-shoin.co.jp/misc/311care.html>

【資料 36】 東北関東大震災及び放射線被害に関する調査で利用可能な無料データベース等

URL : http://www.jasdi.jp/doc/free_database_avai_by_equk_rad_ray_dmg.pdf

【資料 37】 JAPIC : 災害関連の医薬情報の提供

URL : <http://www.japic.or.jp/whatsnew/index.php?mod=show&id=169>

【資料 38】 じほう : 先発⇄後発 早見表

URL : <http://www.japan-medicine.com/jiho/yakugazou/index.html>

【資料 39】 NHK きょうの健康 : 過去記事 (無料公開)

URL : https://docs.google.com/leaf?id=1WW3hHuAUrY48Or3NhYNiSQm_Rcsz9PX7mFVh88Dr-6g9Lmoc2htDZBLappwt&hl=ja&authkey=CJmMn5sC

【資料 40】 JASDI 日本医薬品情報学会 : MICROMEDEX 翻訳プロジェクト

URL : http://jasdi.jp/project_micromedex.html

【資料 41】 NPO 法人 PEG ドクターズネットワーク : 経腸栄養マップ

URL : <http://www.peg.or.jp/care/nst/map.pdf>

【資料 42】 医療教育研究所 : 災害医療と薬剤師シリーズ (公開講座/無料公開)

URL : http://www.ime.or.jp/koukai/koukai_sp.html

【資料 43】 東北地方太平洋沖地震における医療用麻薬の県境移動の取り扱いについて

URL : <http://www.nichiyaku.or.jp/contents/topics/pdf/tpc110313-47.pdf>

【資料 44】 手洗い奨励ポスター

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=33>

【資料 45】 情報通信機器を用いた診療 (遠隔診療) 等に係る取扱いについて

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=34>

【資料 46】 口腔ケアで肺炎予防

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=1&lid=36>

【資料 47】 義歯を紛失した虚弱高齢者や摂食嚥下障害の方への食事への一工夫

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=37>

【資料 48】 POSTERS TO CHEER (ポスター)

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=38>

【資料 49】 原発事故対策

URL : <http://www.geocities.co.jp/wallstreet/1795/datugenpatu/991005jikotaisaku.htm>

【資料 50】 原子力施設での臨界事故があった場合、どうしてヨウ素剤を服用するのか

URL : <http://www.geocities.co.jp/wallstreet/1795/datugenpatu/991226yousozai.html>

【資料 51】 安定ヨウ素剤取扱マニュアル

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=44>

【資料 52】 水道水中の放射性元素の除去

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=45>

【資料 53】 業発第 343 号（東北地震・麻薬向精神薬）[1]

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=47>

【資料 54】 今回の地震における医療用麻薬異動の取り扱いについて

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=46>

【資料 55】 被災地での救援活動ボランティアを希望される薬剤師の皆様へ

URL : <http://www.nichiyaku.or.jp/contents/topics/tpc110317.html>

【資料 56】 消毒液

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=48>

【資料 57】 歯科口腔ケア連絡会からの情報提供

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=49>

【資料 58】 薬剤師の災害時活動

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=50>

【資料 59】 サバイバルカード（[日本内科学会](#)提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=51>

【資料 60】 サバイバルカード～解説～（[日本内科学会](#)提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=52>

【資料 61】 災害医療活動－超急性期（[日本内科学会](#)提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=53>

【資料 62】 災害医療活動－超急性期～解説～（[日本内科学会](#)提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=54>

【資料 63】 災害 3 日目以降（[日本内科学会](#)提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=55>

【資料 64】 災害 3 日目以降～解説～（[日本内科学会](#)提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=56>

【資料 65】 医療支援編－避難所編（[日本内科学会](#)提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=57>

【資料 66】 医療支援編－避難所編～解説～（[日本内科学会](#)提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=58>

【資料 67】 災害拠点病院編（[日本内科学会](#)提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=59>

【資料 68】 災害拠点病院編～解説～（日本内科学会提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=60>

【資料 69】 精神医療支援（日本内科学会提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=61>

【資料 70】 精神医療支援～解説～（日本内科学会提供）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=62>

【資料 71】 被災地での給水・炊き出し・物資情報共有サイト

URL : <http://okguide.okwave.jp/touch/guides/40782>

【資料 72】 自動車・通行実績情報マップ

URL : http://www.google.com/intl/ja/crisisresponse/japanquake2011_traffic.html

【資料 73】 被災した子どもさんの保護者の方へ

URL : http://jalc-net.jp/hisai_kokoro.html

【資料 74】 被災時における乳幼児の栄養

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=63>

【資料 75】 災害時の乳幼児栄養に関する指針

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=64>

【資料 76】 子供に果汁を与えるリスクと適切な摂取方法についての勧告

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=65>

【資料 77】 母乳で育てられている新生児の血糖値モニターと低血糖治療のためのガイドライン

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=66>

【資料 78】 正期産新生児の補足のための診療指針

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=67>

【資料 79】 乳腺炎について

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=68>

【資料 80】 少し早く生まれた赤ちゃんの母乳育児援助

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=69>

【資料 81】 母乳で育つ早産児の退院の手引き

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=70>

【資料 82】 地震や水害にあった母乳育児中のお母さんへ

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=71>

【資料 83】 お母さんを援助している方、およびメディア関係者へのお願い

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=72>

【資料 84】 被災者の支援にあたっている方へ

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=73>

【資料 85】 災害時の母乳育児相談 FAQ

URL : http://www.jalc-net.jp/hisai_FAQ_title.htm

【資料 86】サイコロジカル・ファーストエイド

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=74>

【資料 87】被災した認知症患者の支援ガイド

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=75>

【資料 88】被災した認知症患者と家族のための支援ガイド

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=76>

【資料 89】災害被災地におけるプライマリ・ヘルスケア

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=77>

【資料 90】よい睡眠をとりましょう

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=83>

【資料 91】地震など万一のときに備えよう！ 自分でできる"薬の情報"管理（PC 閲覧用）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=84>

【資料 92】地震など万一のときに備えよう！ 自分でできる"薬の情報"管理（印刷用）

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=85>

【資料 93】薬包紙の折り方

URL : <http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=86>

§3：連絡先一覧

薬剤師会一覧

※メールアドレス等、緊急時の連絡先（代表）を記載しております。一般人向けの「お薬相談」アドレスは記載しておりません。

※各薬剤師会トップページおよび問合せ等の「一般人にも分かりやすい場所」に明記されていない項目については、「非公開」扱いとさせて頂きました。

※事務局と都道府県薬会館など、2つ以上の連絡先がある場合は、都道府県薬会館を優先して掲載しています。

[社団法人 日本薬剤師会](#)

TEL：03-3353-1170 FAX：03-3353-6270

E-mail：非公開

〒160-0004 東京都新宿区四谷3丁目3-1

[社団法人 日本薬剤師会 災害対策本部](#)

TEL：03-3353-1170 FAX：03-3353-6270

E-mail：saigai@nichiyaku.or.jp

〒160-0004 東京都新宿区四谷3丁目3-1

[社団法人 北海道薬剤師会](#)

TEL：011-811-0184 FAX：011-831-2412

E-mail：info-d@doyaku.or.jp

〒062-8631 北海道札幌市豊平区平岸1条8丁目5-12

[社団法人 青森県薬剤師会](#)

TEL：017-742-8821 FAX：017-743-4452

E-mail：HPに問合せフォームあり

〒030-0961 青森市浪打一丁目16番17号

[社団法人 岩手県薬剤師会](#)

TEL：019-622-2467 FAX：019-653-2273

E-mail：ipa3jo-ho@iwayaku.or.jp

〒020-0876 岩手県盛岡市馬場町3番12号

[社団法人 宮城県薬剤師会](#)

TEL：022-391-1180 FAX：022-391-6640

E-mail：info@mypha.or.jp

〒989-3126 宮城県仙台市青葉区落合2-15-26

[社団法人 秋田県薬剤師会](#)

TEL：018-833-2334 FAX：018-835-2576

E-mail：HP最下部に問合せフォームあり

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6-6

[社団法人 山形県薬剤師会](#)

TEL : 0 2 3 - 6 2 2 - 3 4 8 4 FAX : 0 2 3 - 6 3 2 - 5 1 9 6

E-mail : HP 右上に問合せフォームあり

〒990-2411 山形県山形市前田町 17-15

[社団法人 福島県薬剤師会](#)

TEL : 0 2 4 - 5 4 9 - 2 1 9 8 FAX : 0 2 4 - 5 4 9 - 2 2 0 9

E-mail : 非公開

〒960-8157 福島県福島市蓬萊町 2 丁目 2-2

[社団法人 茨城県薬剤師会](#)

TEL : 0 2 9 - 2 2 5 - 9 3 9 3 FAX : 非公開

E-mail : 非公開

〒310-0034 茨城県水戸市緑町 3-5-35

[社団法人 栃木県薬剤師会](#)

TEL : 0 2 8 - 6 5 8 - 9 8 7 7 FAX : 0 2 8 - 6 5 8 - 9 8 4 7

E-mail : 非公開

〒321-0165 宇都宮市緑 5 丁目 1 番 5 号

[社団法人 群馬県薬剤師会](#)

TEL : 0 2 7 - 2 2 3 - 7 7 3 6 FAX : 0 2 7 - 2 2 3 - 5 3 0 8

E-mail : 非公開

〒371-0013 群馬県前橋市西片貝町 5 丁目 1 8-3 6

[社団法人 埼玉県薬剤師会](#)

TEL : 0 4 8 - 6 5 3 - 4 5 1 1 FAX : 0 4 8 - 6 5 2 - 6 0 6 0

E-mail : spa@saiyaku.or.jp

〒331-8631 埼玉県さいたま市北区土呂町 1-50-4

[社団法人 千葉県薬剤師会](#)

TEL : 0 4 3 - 2 4 2 - 3 8 0 1 FAX : 0 4 3 - 2 4 8 - 0 6 4 6

E-mail : edit@c-yaku.or.jp

〒260-0025 千葉市中央区問屋町 9-2

[社団法人 東京都薬剤師会](#)

TEL : 0 3 - 3 2 9 4 - 0 2 7 1 FAX : 0 3 - 3 2 9 4 - 7 3 5 9

E-mail : info@toyaku.or.jp

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-21

[社団法人 神奈川県薬剤師会](#)

TEL : 0 4 5 - 7 6 1 - 3 2 4 1 FAX : 0 4 5 - 7 5 1 - 4 4 6 0

E-mail : 非公開

〒235-0007 神奈川県横浜市磯子区西町 14-11

社団法人 新潟県薬剤師会

TEL : 025-281-7730 FAX : 025-281-7735

E-mail : 非公開

〒950-0941 新潟県新潟市中央区女池1丁目3-16

社団法人 富山県薬剤師会

TEL : 076-432-2577 FAX : 076-442-3308

E-mail : info@tomiyaku.or.jp

〒930-0018 富山県富山市千歳町1丁目4番1号薬業会館4F

社団法人 石川県薬剤師会

TEL : 076-231-6634 FAX : 076-223-1520

E-mail : kenyaku@plaza-woo.jp

〒920-0032 石川県金沢市広岡町イ25番地10

社団法人 福井県薬剤師会

TEL : 0776-26-1453 FAX : 0776-27-4077

E-mail : HPに問合せフォームあり

〒910-0026 福井県福井市光陽4-11-22

一般社団法人 山梨県薬剤師会

TEL : 055-254-3400 FAX : 055-254-3401

E-mail : mail0702@ypa.or.jp

〒400-0027 山梨県甲府市富士見1-2-4

社団法人 長野県薬剤師会

TEL : 0263-34-5511 FAX : 0263-34-0075

E-mail : pinfo@naganokenyaku.or.jp

〒390-0802 長野県松本市旭2丁目10番15号

社団法人 岐阜県薬剤師会

TEL : 058-260-8800 FAX : 非公開

E-mail : 非公開

〒500-8146 岐阜市九重町4-5

社団法人 静岡県薬剤師会

TEL : 054-203-2023 FAX : 054-203-2028

E-mail : kenyaku@shizuyaku.or.jp

〒422-8063 静岡市駿河区馬淵2丁目16番32号静岡県薬剤師会館

社団法人 愛知県薬剤師会

TEL : 052-231-2261 FAX : 052-231-2268

E-mail : HPに問合せフォームあり

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内2-3-1

社団法人 三重県薬剤師会

TEL : 059-228-5995 FAX : 059-225-4728

E-mail : 非公開

〒514-0002 津市島崎町 312-1

社団法人 滋賀県薬剤師会

TEL : 077-565-3535 FAX : 077-563-9033

E-mail : info@shigayaku.or.jp

〒525-0072 滋賀県草津市笠山七丁目 4-52

社団法人 京都府薬剤師会

TEL : 075-551-0376 FAX : 075-525-1650

E-mail : k-fuyaku@nifty.com

〒605-0863 京都市東山区東大路通五条上ル梅林町 563

社団法人 大阪府薬剤師会

TEL : 06-6947-5481 FAX : 06-6947-5480

E-mail : HP に問合せフォームあり

〒540-0019 大阪市中央区和泉町 1丁目 3番 8号

社団法人 兵庫県薬剤師会

TEL : 078-341-7585 FAX : 078-341-7113

E-mail : info@hps.or.jp

〒650-0011 兵庫県神戸市中央区下山手通 6丁目 4番 3号

社団法人 奈良県薬剤師会

TEL : 0744-22-8413 FAX : 0744-22-2739

E-mail : npa@mahoroba.ne.jp

〒634-0063 奈良県橿原市久米町 926 番地 奈良県薬業会館内

社団法人 和歌山県薬剤師会

TEL : 073-422-4748 FAX : 073-428-1143

E-mail : wpa@oak.ocn.ne.jp

〒640-8249 和歌山市雑賀屋町 19

社団法人 鳥取県薬剤師会

TEL : 0857-27-6161 FAX : 0857-27-5084

E-mail : HP に問合せフォームあり

〒680-0841 鳥取県鳥取市吉方温泉 3丁目 751

社団法人 島根県薬剤師会

TEL : 0852-25-0900 FAX : 0852-26-5358

E-mail : info@simayaku.or.jp

〒690-0852 島根県松江市千鳥町 8 番地

一般社団法人 岡山県薬剤師会

TEL : 086-222-5424

FAX : 086-225-2645

E-mail : 非公開

〒700-0822 岡山市北区表町1-3-50

社団法人 広島県薬剤師会

TEL : 082-246-4317

FAX : 082-249-4589

E-mail : info@hiroyaku.or.jp

〒730-8601 広島市中区富士見町11-42

社団法人 山口県薬剤師会

TEL : 083-922-1716

FAX : 083-924-7704

E-mail : office@yama-yaku.or.jp

〒753-0814 山口県山口市吉敷下東3丁目1-1 山口県総合保健会館4F

社団法人 徳島県薬剤師会

TEL : 088-655-1100

FAX : 088-655-6991

E-mail : info@tokuyaku.or.jp

〒770-0856 徳島県徳島市中洲町1-58

社団法人 香川県薬剤師会

TEL : 087-831-0508

FAX : 087-861-5257

E-mail : info@kagayaku.jp

〒760-0006 香川県高松市亀岡町9番20号

社団法人 愛媛県薬剤師会

TEL : 089-941-4165

FAX : 089-921-5353

E-mail : epa-3769@dokidoki.ne.jp

〒790-0003 愛媛県松山市三番町7-6-9

社団法人 高知県薬剤師会

TEL : 088-873-6429

FAX : 088-822-8734

E-mail : kenyakuk@i-kochi.or.jp

〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7-45 総合あんしんセンター2F

社団法人 福岡県薬剤師会

TEL : 092-271-3791

FAX : 092-281-4104

E-mail : 非公開

〒812-0018 福岡市博多区住吉2丁目20番15号

社団法人 佐賀県薬剤師会

TEL : 0952-23-8931

FAX : 0952-23-8941

E-mail : info@sagayaku.or.jp

〒840-0027 佐賀県佐賀市本庄町本庄1269-1

[社団法人 長崎県薬剤師会](#)

TEL : 095-847-2600 FAX : 095-848-6160

E-mail : nagasaki@npa.or.jp

〒852-8104 長崎県長崎市茂里町3番18号

[社団法人 熊本県薬剤師会](#)

TEL : 096-370-5800 FAX : 096-370-5888

E-mail : info@kumayaku.or.jp

〒860-0832 熊本県熊本市萩原町10番6号

[社団法人 大分県薬剤師会](#)

TEL : 097-544-4405 FAX : 097-544-1051

E-mail : jimu@oitakenyaku.or.jp

〒870-0855 大分市大字豊饒字光屋441-1

[社団法人 宮崎県薬剤師会](#)

TEL : 0985-26-7755 FAX : 0985-25-8069

E-mail : miyasys0@miyayaku.or.jp

〒880-0813 宮崎県宮崎市丸島町2-5

[社団法人 鹿児島県薬剤師会](#)

TEL : 099-257-8288 FAX : 099-254-6129

E-mail : kayaku@kayaku.jp

〒890-8589 鹿児島県鹿児島市与次郎2丁目8番15号

[社団法人 沖縄県薬剤師会](#)

TEL : 098-963-8930 FAX : 098-963-8932

E-mail : 非公開

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10

関連団体連絡先

[厚生労働省](#)

TEL : 03-5253-1111 FAX : 非公開

E-mail : 非公開

〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2

[社団法人 日本医師会](#)

TEL : 03-3946-2121 FAX : 03-3946-6295

E-mail : wwwinfo@po.med.or.jp

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16

[社団法人 日本歯科医師会](#)

TEL : 03-3262-9321 FAX : 非公開

E-mail : 非公開

〒102-0073 東京都千代田区九段北四丁目1番20号

[公益社団法人 日本看護協会](#)

TEL : 03-5778-8831 FAX : 非公開

E-mail : 非公開

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2

[社団法人 日本糖尿病学会](#)

TEL : 03-3815-4364 FAX : 03-3815-7985

E-mail : 非公開

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-18 ハイテク本郷ビル 3F

[一般社団法人 全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会](#)

TEL : 080-5017-1479 FAX : 03-5813-5564

E-mail : jimukyoku@e-shika.org

〒120-0034 東京都足立区千住 3-6 ツォード千住壱番館 801 号室

[社団法人 日本内科学会](#)

TEL : 03-3813-5991 FAX : 03-3818-1556

E-mail : naika@naika.or.jp

〒113-8433 文京区本郷 3-28-8 日内会館 3階

[日本医薬品情報学会 \(JASDI\)](#)

TEL : 非公開 FAX : 非公開

E-mail : officel@jasdi.jp

〒105-8512 東京都港区芝公園 1-5-30

慶応義塾大学薬学部 (株) 慶応薬学事業会 内

[MPO 法人 医薬品ライフタイムマネジメントセンター](#)

TEL : 非公開 FAX : 非公開

E-mail : office-070401@dlmc.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院薬学系研究科 医薬品情報学講座内

その他連絡先

[JAPIC 日本医薬情報センター 災害関連の医薬情報の提供](#)

TEL-1 : 0120-181-276 TEL-2 : 03-5466-1812

JAPIC 日本医薬情報センター 付属図書館

TEL : 03-5466-1827 FAX : 03-5466-1818

[株式会社 システムヨシイ 災害支援ページ](#)

TEL : 086-805-8580 FAX : 非公開

E-mail : support@drugbox.co.jp

〒700-0927 岡山県岡山市北区西古松 322 番地 110

[株式会社 じほう 先発-後発対照表](#) (東京：出版事業本部)

TEL：03-3265-7751 FAX：03-3265-7769

[NPO 法人 PEG ドクターズネットワーク](#)

TEL：03-6228-3611 FAX：03-6228-3730

E-mail：info@peg.or.jp

[特定非営利活動法人 医療教育研究所](#)

TEL：非公開 FAX：非公開

E-mail：support@ime.or.jp

〒101-0061 東京都千代田区 三崎町 3-2-16 三弘ビル 3F

[兵庫県こころのケアセンター](#)

TEL：078-200-3010 FAX：078-200-3017

E-mail：非公開

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目3番2号

[認知症介護研究・研修東京センターケアマネジメント推進室](#)

TEL：非公開 FAX：非公開

E-mail：knagata@itsu-doko.net

非公開

[エイヨウショクヒン.コム](#)

TEL：06-6942-6308 FAX：非公開

E-mail：HP に問合せフォームあり

〒101-8512 東京都千代田区神田美土代町7番地 (運営：アルフレッサ)

§ 4 : 被災地へ支援に向かうにあたっての注意

「支援フェイズ」について

災害発生から時を経るに従い、被災地および被災者が必要とする物資が変わるように、支援に向う薬剤師の携帯品や資料も大きく変わってゆく事実が確認されている。被災地や避難所に赴いた薬剤師を含む医療専門職の判断に基づき、より緊急性を要する支援物資（医薬品、医療用具、飲料水、食事等々）の選定を行い、適切かつ迅速な引き継ぎと、被災地へ公開しその供給と支援に反映させることが何より重要であると考えられる。

そこで筆者は、被災地および避難所の状況を幾つかに分類（「支援フェイズ」と定義する）し、広く情報として公開すると共に、この分類に基づいた支援物資の供給を推奨する。

この「支援フェイズ」という概念の導入により、様々な物資を単に「被災地」へ送るだけで無く、地震発生から50日以上経過した現在も必要とされている支援物資の仕分け作業をより有効に活かし、求めている避難所へ求められている物資が効率的に届ける事が可能になると考えられる。

「支援フェイズ」の導入は、J-HOPにおいても未だ議論中の案件であるため、§ 4の各段落では「支援フェイズ」に基づく定義を採用せず、単に時系列に従ったまとまりとして「段階」と表現する。現時点での筆者による「支援フェイズ」の詳細は、次の通り。

人間の住環境を語る際、「衣・食・住」と表現されることがある。しかしながら2011年現在、一定の経済成長を遂げた日本において「衣」は重要視されることがなくなった。加えて、地震や津波などによる激甚災害発生時に多数の被害者が発生したため、被災地医療は最重要事項となる。

以上を鑑み、筆者は「衣・食・住」に代わり「医・食・住」という表現の導入を提言するものである。この「医・食・住」分類は、筆者が述べている「支援フェイズ」のカテゴリ分類にも活用できる。

医：Medical 食：Food 住：Housing

それぞれの頭文字と、災害発生から被害の深刻さを3～4段階（例：0～Ⅲ）に分けて表記することで、医療スタッフや行政、各種ボランティア、市民の認識の共有にも貢献できるものと思われる。

例1：フェイズ「0」に関して重要度がⅡの状況

例2：フェイズ「Ⅲ」に関して重要度がⅠの状況

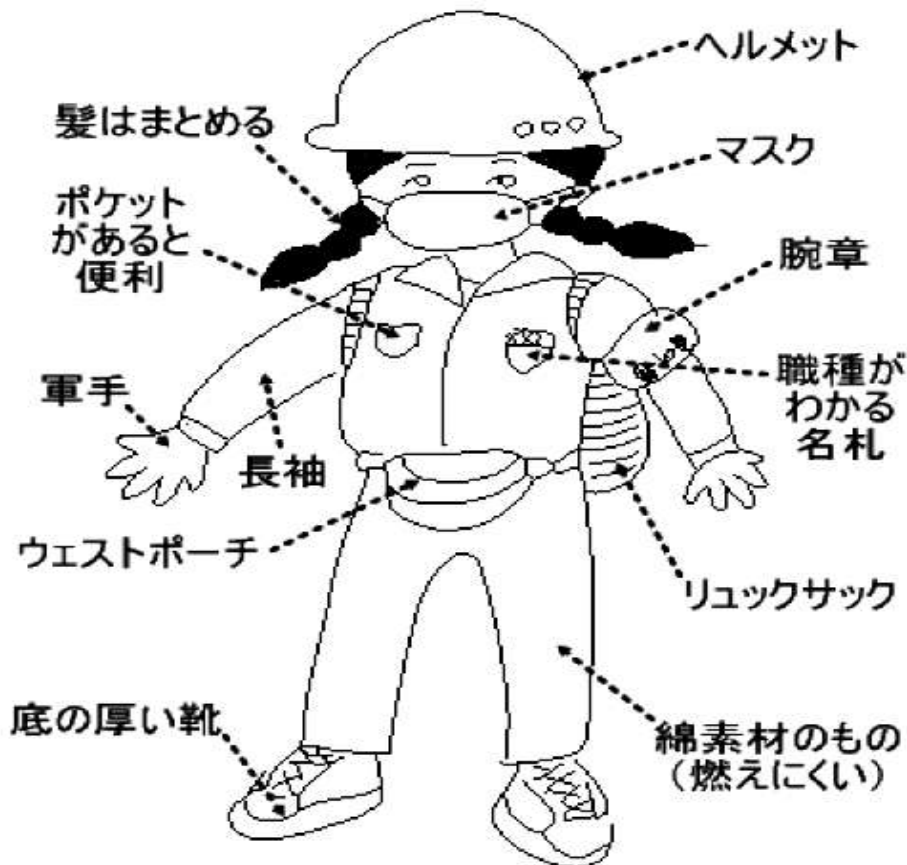
具体的な利用方法は次の通り

実際に支援に向かった薬剤師等の医療専門職がボランティアによって、避難所等の現在の状況を判定し、現地自治体や厚生労働省などがある場合は日本薬剤師会などへ連絡を行い、連絡を受けた側が被災地外の者にインターネット等を利用してその情報を公開する。

支援に入る医療スタッフやボランティアは、開示されたフェイズ情報に従い装備を調べてから現地へ向かう事で、よりの確な支援が可能になる。また、支援者の引き継ぎの際も、必要な物資等の目処がつくため、スムーズかつ無駄のない引き継ぎが可能になると考えられる。

※J-HOPにおいて概念の導入や詳細が決定次第、逐次掲載してゆくものとする。

災害発生直後の装備



災害、ことに大地震発生直後は、大きな余震に見舞われる可能性が高い。このことから、支援に向う薬剤師自身が災害に遭わぬよう、身体の保護に重点をおいた装備で支援に向う必要がある。

具体的な装備品については、[§ 1](#)の「必ず携帯すべき物(薬剤師に限らない)」を参照のこと。中でも、いざという時に両手が使えるよう、リュックなどの荷入れ道具は重要である。また、作業上どうしても建築物の付近での待機や通行を避けられない場合、頭上からの落下物に対する注意が特に重要である。帽子では無くヘルメットの携帯を強く推奨する。また、支援者は被災地の物資に頼ることはできない。最低でも3日分の食事や水、米、カロリーメイトなどの栄養補助食品を持参する事が望ましい。

この段階で薬剤師の活動として必要とされるものは、自宅で酸素吸入や喀痰除去などの装置を使用している在宅療養患者の安否確認、傷病者への対応(医師の診断に伴う調剤行為)および定時処方薬の紛失にまつわる相談対応等がある。混乱した現場で、数少ないスタッフが効率的に動けるよう、画一的な情報の通達は掲示物等での周知を行うことが大事であると思われる。

また、被災地以外の薬剤師が協力をして、前述の掲示物を作成・収集して早急に送り届けることも重要であろう。

災害発生後1～2週間

寸断された情報網がつながりはじめ、被害の規模が明らかになる時期である。この頃から各地からの支援物資が届くようになるが、流通網が回復していないために、比較的被害の少ない地域にまでしか到達しない。同様に、医療機関からの医薬品の潤渇が問題となる時期であるため、初期からエッセンシャル医薬品(主要な医薬品)の支援輸送が必要である。また、支援者は被災地の物資に頼ることはできない。

最低でも活動予定日数分の食事や水、米、カロリーメイトなどの栄養補助食品を持参する事が望ましい。

この段階での薬剤師の活動として必要とされるものは、再開した診療機関の処方箋応需、支援物資（特に医薬品）の仕分け、体調不良を訴える患者への OTC 薬による対応などがある。特に全国からジェネリック医薬品（以下、GE）が届く時期は、医師や看護師など薬剤師以外の医療スタッフでは適正な仕分け・使用が出来ない可能性がある。仕分けに際しては、先発品と GE、GE の中でも薬効別などに選別する必要がある。[§ 2](#)の【資料 [17](#)、[38](#)、[39](#)】などを活用されたい。

災害発生後 3～4 週間

被災地において、行方不明者の捜索が終了し、大規模なライフラインの復旧作業が始まる時期である。また、災害直後に通行が限定されていた基幹道路で、一般車両への通行許可が下りる時期でもある。これにより支援ボランティアの活動が一層活発になるものの、インターネット回線への接続可能な地域は限定的で、被災地と非被災地の間での情報共有が鍵となる。

通常のファイル送受信も満足に行えないため、被災地へ向う場合はそれ以前のフェイズ同様、予めプリントアウトして持参する事が望ましい。しかしながら、多くの場所で携帯電話が利用可能になる時期でもあり、ポケット Wifi などの機器を活用することにより、それらの不都合が緩和される場合も十分に考えられる。所有者は是非、持参を勧める。また、支援者は被災地の物資に頼ることはできない。現地のスーパーなどが機能しているかどうか、前任のボランティア等から情報を得てから支援に向かうべきであろう。

この段階での薬剤師の活動として必要とされるものは、在宅活動への移行とその準備、必要な物資（移動手段となる車など）の調達、インフラが未だ整わない地区への重点的なフォローなどがある。

災害発生後 1 ヶ月～

被災地の中でも、市街地や主要都市およびその周辺は電気等のライフラインが回復しつつあるものの、山間部などの元来インフラが進みにくかった地域においては未だ電気供給の目処さえ立たず、連絡手段も電話やインターネットが使用できないため、発信することはもとより収集さえままならない。

NPO 法人等で形成されたボランティア団体が、機動性を利用したバイク便などを活用し、行政と山間部住民とのパイプ役を担っている場合がある。災害以前に在宅療養を利用していた患者との連絡にも利用できると考えられるため、これら団体との協力作業、そして機能が改善傾向にある行政との連絡を密に行う事が重要である。また、多くのスーパーやコンビニが営業を開始している状態であるが、支援者は自身で食料の調達を行わなければならない。活動日数も多岐にわたることから、現金はある程度の余裕を持って持参されたい。

この段階での薬剤師の活動として必要とされるものは、災害発生後に点と化した薬局・薬剤師の機能を、現地薬剤師会の機能回復をもって面として再構築する努力とともに、これまでにボランティアなどによって集められた情報を、精査・整理して被災地の内外へ発信し、無駄にしないための「引き継ぎ」の充実である。また、地震発生が 3 月 11 日と気温の低い時期に起こったため、現在のところ被災地の衛生環境は一定の水準を保っているものの、数ヶ月と経たぬうちに梅雨に入る。気温と湿度の上昇に加え、山積した瓦礫や木材の腐敗等により衛生環境の著しい悪化が懸念される事から、この段階からの各避難所における共通した衛生指導の徹底が望まれる。

§5：被災者および被災患者へのケアと対応

被災により生じた住環境上の不具合や、被災者の心身への過度の負担は、より大きな混乱と新たな疾病の誘発へとつながる。加えて、避難所の衛生状態の悪化は感染症の流行を招く事が容易に想像され、被災者の住環境や心に対するケアは、決して蔑ろにできる事ではない。

しかしながら災害時の限られた情報網では、正確な対応を被災者一人一人に的確に伝達することは非常に困難を極めるとともに、医学的根拠のない民間療法や、かえって身体に悪影響を及ぼすような噂が溢れる事態も発生しやすい。また、被災直後にお薬手帳の情報を元に特例処方を受けられるという情報が被災者間で広まったが、避難先（他県：九州）の薬局でもお薬手帳のみで薬がもらえろと思込み、薬局と患者間でトラブルが発生した、という事例も当連絡会で把握している。

これらの状況を未然に防ぎつつ、正しい情報を広く被災者に広めるために、重要な項目をポスターとして作成し避難所に掲示する方法が有用である。これにより、被災地および避難所にて画一的に正しい情報を専門家の手によって発信・周知する事が可能と考える。

積極的にポスター等の作成および配布・掲示を行うべきであると考えられるが、特定の団体名で発信されることにより記載内容への信憑性も増し、より正しく伝達することが可能になる場合も多く在る。当連絡会では、配布前に会員専用の ML にて配布と内容確認が行われ、適宜修正を行った後、ホームページからダウンロードできるよう掲載に努めている。これにより、被災地あるいは被災地に近い詰所等で印刷を行い現地へ持参するなど、支援に向かう薬剤師の負担軽減に貢献できるものと考えている。

また、現地への配布物や情報提供が必要な事項において、当連絡会の会員であれば誰でも ML を使って発信が可能である。是非、ご活用頂きたい。

避難所への掲示等に利用できるもの

※患者さんご本人やご家族など、また避難所に退避中の一般の方用に作成された資料です

- 地震など万一のときに備えよう！ 自分でできる"薬の情報"管理：【資料 91、92】参照
- 口腔ケアについて：【資料 07】参照
- 災害時のお薬手帳について：【資料 08】参照
- 排尿でお悩みの方へ：【資料 10】参照
- 手洗い奨励ポスター：【資料 44】参照
- 被災者の心的ケアポスター【資料 48】参照
- 流動（栄養）食をご利用の患者様へ：【資料 57】参照
- 被災した幼児・児童の心のケアについて：【資料 73】参照
- 地震や水害に遭った母乳育児中のお母さんへ：【資料 82】参照
- お母さんを援助している方、およびメディア関係者へのお願い：【資料 83】参照
- 被災者の支援にあたっている方へ：【資料 84】参照
- 災害時の母乳育児相談 Q&A：【資料 85】参照
- 避難所で頑張っている認知症の人、家族等への支援ガイド：【資料 88】参照
- よい睡眠をとりましょう：【資料 90】参照

§ 6 : 放射能に関する資料・情報

原子力施設での臨界事故があった場合、どうしてヨウ素剤を服用するのか

(J-HOP メーリングリスト : 3/13 17 : 09)

【資料50】参照 (茨城県薬剤師会 薬事情報室より)

原発事故対策

(J-HOP メーリングリスト : 3/13 17 : 09)

【資料49】参照 (茨城県薬剤師会 薬事情報室より)

ヨウ素剤服用方法について

(J-HOP メーリングリスト : 3/16 09 : 22)

【資料05】参照

安定ヨウ素剤 取扱いマニュアル その1

(J-HOP メーリングリスト : 3/16 10 : 20)

【資料51】参照

※HTML : http://www.remnet.jp/lecture/b03_03/index.html

安定ヨウ素剤 取扱いマニュアル その2

(J-HOP メーリングリスト : 3/16 10 : 20)

【資料11】参照

放射線の正しい知識

(J-HOP メーリングリスト : 3/20 18:53)

【資料12】参照

水道水の放射能汚染について

(J-HOP メーリングリスト : 3/24 10:10)

【資料52】参照

§7：麻薬に関する資料・情報

麻薬の取り扱いについて その1

(J-HOP メーリングリスト：3/14 17:25)

【資料53】参照

〔平成23年東北地方太平洋沖地震における処方箋医薬品（医療用麻薬及び向精神薬）の取扱いについて（日薬業発第343号）〕

麻薬の取り扱いについて その2

(J-HOP メーリングリスト：3/15 19:11)

3月15日付で厚労省から文書が出ました。【資料54】を参照してください。

今回の通知では

- (1) 譲渡を行なうとする麻薬卸売業者は、麻薬小売業者または麻薬診療施設の開設者は、管轄の地方厚生局に麻薬取締部に、譲渡する医療用麻薬の名称、数量および譲渡先について電話連絡を行なう。
- (2) 譲渡後、麻薬および向精神薬取締法24条第11項の規定に基づく医療用麻薬の譲渡許可申請書を管轄の地方厚生局麻薬取締部に提出し許可書の交付を受ける。

とされています。

現行の法律では基本的に卸売業者の免許がなければ譲渡ができない（特例として薬局間の取引あり）ところ、以上の例外措置が認められるということです。

問屋から麻薬を入手したくてもできない薬局は他の薬局、卸売業者から県を超えて入手することが可能であるということです。手続きが少し面倒ですが、必要とする薬局患者に届けられることになりました。

麻薬の取り扱いについて その3

(J-HOP メーリングリスト：3/18 12:22)

厚労省通達の真意はまさに、

「ある程度予測されるものを薬剤師の判断で持ち込んでよい。

そして現地では医師の指示に合わせて払い出すことができる」

というものとことです！！

途中の手続きは、細かく規定されていませんが、地元行政への届出と報告はもちろん必要です。

麻薬の取り扱いについて その4

(J-HOP メーリングリスト : 3/18 17:51)

こんな感じのようです。

(正式な通達文書ではないのですが、下記のことはクリアされているようす)

県をまたいでの医療用麻薬譲渡に関する、厚労省通達の解釈は以下の通りのようです。

- 薬局が地元の医師に譲渡し、その医師が持ち出す場合は現地の求めに応じてでなくてもよい。
- 薬剤師が持ち出す場合は、現地の医療機関の求めに応じてでないといけない。つまり、「譲渡先」はあらかじめ、厚生局伝えておかななくてはならない。
- 薬剤師が適当に持って行って、現地で言われたら配る、というのは不可。

こんな感じ。

こんな感じではっきり書いてくれたら、わかりやすいのに・・・

通達の解釈幅があまりにも広過ぎだと思います。

麻薬の取り扱いについて その5

(J-HOP メーリングリスト : 3/18 18:23)

麻薬の持ち出しは、譲渡先を確定して品目・数量・譲渡先を事前に厚生局に届け出る必要があります。違法にならない様にくれぐれもお願い申し上げます。

麻薬の取り扱いについて その6

(J-HOP メーリングリスト : 3/18 21:24)

処方薬・医療用麻薬の現時点でのまとめ

SCORE-G のサイトに現時点でのまとめが先程アップされました。

<http://www.itaminai.net/>

ご確認いただき、ご意見ください。

§ 8 : 薬剤師としての活動で有用な資料等

薬剤師ボランティアの応募要項

(J-HOP メーリングリスト : 3/20 11:17)

[【資料 55】](#) 参照

※個人で直接日薬へは登録できず、各都道府県へ応募するよう明記されております。

経口補水塩の作り方

J-HOP メーリングリスト : 3/12 12:41

下痢の時、体調が悪い時、その他今のような災害の時に役立つ

「経口補水塩」の作り方

- 水 : 1L
- 砂糖 : 40g
- 塩 : 3g

普通の水の 2.5 倍、スポーツドリンクの 1.0 倍、体に吸収されやすいそうです。
これで助かった人も大勢います。

消毒薬の組成について

(J-HOP メーリングリスト : 3/13 19:00)

[【資料 56】](#) 参照

インスリン製剤の入手について

(J-HOP メーリングリスト : 3/15 07:34)

[日本糖尿病学会](#)は3月14日、東北地方太平洋沖地震に関して対策本部を設置し、インスリンが必要にもかかわらず主治医と連絡が取れない被災者に対して、インスリン入手のための相談連絡先を公表しています。被災地で相談に応じる医療機関や製薬会社の連絡先が記載されています。

栄養剤が入手困難な場合の対処法

(J-HOP メーリングリスト : 3/16 19:13)

[【資料 57】](#) 参照

※歯科口腔ケア連絡会からの情報提供です

食品成分表データ（抜粋）

(J-HOP メーリングリスト：3/17 10:04)

食品成分表のデータ

人乳（100g）中：

エネルギー65kcal タンパク質 1.1g 脂質 3.5g 炭水化物 7.2g

牛乳（100g）中：

エネルギー67kcal タンパク質 3.3g 脂質 3.8g 炭水化物 4.8g

エンシュア（100mL）中：

エネルギー100kcal タンパク質 3.52g 脂質 3.52g 炭水化物 13.72g

ラコール（100mL）中：

エネルギー100kcal タンパク質 4.38g 脂質 2.23g 糖質 15.62g

タンパク質の濃度を同じにしないといけないので牛乳を与える場合は1／3に希釈するようです。

エンシュアも同じように1／3希釈、ラコールなら1／4希釈でしょうか？

濃厚流動食も同じように考えていいと思います。

開始時はもう少し薄めにして下痢、アレルギー等の反応を確認する必要があるかと思えます。

不足するエネルギー量は、マルツエキスや砂糖水等で調整すればいいのではないのでしょうか？

冷所保存が必要な製品の安定性について

(J-HOP メーリングリスト：3/17 18:03)

【資料13】参照

※ファイザー社より提供

避難民の排尿ケアについて

(J-HOP メーリングリスト：3/20 16:30)

【資料09】参照：現地医療スタッフ用

【資料10】参照：被災者向け

被災者の治療薬確認票（調査票）

(J-HOP メーリングリスト：3/21 08:46)

【資料16】参照

災害時の調剤記録票

(J-HOP メーリングリスト : 3/21 12:51)

【資料04】参照

薬剤師の災害時活動マニュアル（日本薬剤師会作成）

(J-HOP メーリングリスト : 3/21 21:37)

【資料58】参照

※日本薬剤師会作成資料

被災地状況把握（宮城県薬剤師会 災害掲示板）

(J-HOP メーリングリスト : 3/24 14:36)

ご存知かと思いますが宮城県薬剤師会災害掲示板

<http://8423.teacup.com/mypha/bbs>

書き込みが180件ぐらいありますので状況がお分かり頂けると思います。

原崎さんの紹介した薬の識別シート【資料19～34】や、先発一GE対応表【資料17、38、39】など印刷後クリアファイルに入れて持って行けば喜ばれると思います。避難施設に備えていなければ配布しても良いと思われま

薬包紙の折り方

(J-HOP メーリングリスト : --/-- --:--)

【資料93】参照

※引用：日本病院薬剤師会雑誌 VOL.35 NO.10 1999

§9：薬剤師に限らない活動で有用な資料等

内科医のための災害医療活動

(J-HOP メーリングリスト：3/13 10:46)

【資料 [59](#)～[70](#)】内科医のための災害医療活動

※[日本内科学会](#)ホームページの緊急掲載より

被災者の体調ケアについて

(J-HOP メーリングリスト：3/14 12:27)

今回の震災において、被災地のみならず、近隣の方も含め緊張や交感神経の緊張状態が持続している方が多く、中越地震の際もそうでしたが根本さんも仰られている通り、今後胃腸機能低下からくる体調不良が十分考えられます。

みなさんお分かりになっておられ余計な情報になるなるかもしれませんが、当グループでは食事について次の通り指導を開始しました。

「できるだけ消化の良いものをよく噛んで食べてください！」

理由も分りやすく説明します。

被災地では消化の良いものなどと言っていられないと思いますが、兎に角、普段よりゆっくりよく噛んで食事をするという指導は必要と思います。特に抗コリン作動薬が出ている高齢者には必要と思われます。

落ち着いてくると次は、うつ等の精神関係が問題になってくると思います。

随時更新・インフラ情報（物資・炊出し・給水・公衆電話ほか）

(J-HOP メーリングリスト：3/14 15:16)

【資料 [71](#)】参照

※WEB サイト

嚥下障害患者対策

(J-HOP メーリングリスト：3/14 23:17)

【資料 [14](#)】参照

被災地では食料の調達も大変になり、低栄養価化がすすんでいると推測されます。エンシュアなどの栄養剤なら微量元素も含めて使用すると良いと思いますが、嚥下障害があればトロミが必要となります。

先日のMLでのやりとりでありましたように、エンシュアはトロミ材によってトロミが付く場合と付かない場合があります。そのときに行った実験では、トロミパーフェクト EN（牛乳・濃厚流動食専用）ではトロミが付きませんが、トロミパー

フェクト EN やトロミアップ A ではトロミはつきませんでした。資料を再度添付いたします。

まだやっていますが、ソフティア ENS（ニュートリー）でも大丈夫と聞いております。

なお、地震のショックで全く動かないでいると、廃用症候群や深部静脈血栓症になってしまうので、一定のリハビリは必須のようです。

東日本巨大地震 自動車・通行実績情報マップ

(J-HOP メーリングリスト : 3/15 12 : 19)

[【資料 72】](#) 参照

マップ中に青色で表示されている道路は、前日の 0 時～24 時の間に通行実績のあった道路を、灰色は同期間に通行実績のなかった道路を表示しています。
「通れる」≠「安全」なので注意してください、とのこと。

被災した乳幼児・児童と、その保護者のケアに関する資料

(J-HOP メーリングリスト : 3/16 08 : 17)

[【資料 73】](#) 被災した子供へのケア

[【資料 74】](#) 災害時における乳幼児の栄養

[【資料 75】](#) 災害時の乳幼児栄養に関する指針

[【資料 76】](#) 子どもに果汁を与えるリスクと適切な摂取方法についての勧告

[【資料 77】](#) 母乳で育てられている新生児の血糖値モニターと低血糖治療のためのガイドライン

[【資料 78】](#) 母乳で育てられている健康な正期産新生児の補足のための病院内での診療指針

[【資料 79】](#) 乳腺炎について

[【資料 80】](#) 少し早く生まれた赤ちゃん（在胎 35-37 週）の母乳育児援助

[【資料 81】](#) 母乳で育つ早産児の退院の手引き

[【資料 82】](#) 地震や水害にあった母乳育児中のお母さんへ

[【資料 83】](#) お母さんを援助している方、及び、メディア関係者の方へのお願い

[【資料 84】](#) 被災者の救援にあたっている方へ

[【資料 85】](#) 災害時の母乳育児相談—よく聞かれる質問（FAQ）

被災者への心理的支援 その1

(J-HOP メーリングリスト : 3/17 23 : 00)

【資料86】参照

※[兵庫県こころのケアセンター](#)

心理的支援マニュアルについて

「サイコロジカル・ファーストエイド 実施の手引き 第2版」

(Psychological First Aid ; PFA)

は、災害、大事故などの直後に提供できる、心理的支援のマニュアルです。

災害精神保健に関する、さまざまな領域の専門家の知識と経験、および、たくさんの被災者・被害者の声を集めて、アメリカ国立 PTSD センターと、アメリカ国立子どもトラウマティックストレス・ネットワークが開発しました。

被災者への心理的支援 その2

(J-HOP メーリングリスト : 3/18 10 : 15)

「テレビに、お気をつけください」

～特にお子様、感受性の強い老若男女の方々～

というメールを臨床心理士の方から：

テレビで繰り返し繰り返し流される悲惨な映像は、非常に強い吸引力を持ちます（となく最近のメディアは人々の不安をあおるのが特徴です）。人によっては催眠にかけられたようにテレビの前から動けなくなる人もいるでしょう。こうした映像に何度も何度も自分をさらすことは、何の役にも立ちません。

身体がだるくなったり、ボーッとしたり、涙が出てきたり、妙な罪悪感が湧いてきたり、不安状態にある自分に気づいたら、即刻テレビを消すか、必要なニュース速報のみが流れてくる全く違う番組にしてください。

私たちが生きていく為に必要な情報が得られれば、

それだけでいいのです！

トラウマの渦の引っ張り込む力はとてとても強力です。サンフランシスコ大地震の時は、繰り返されるメディア報道が人々にもたらすネガティブなインパクトは甚大だったといえます。

認知症患者とその家族への支援ガイド

(J-HOP メーリングリスト : 3/18 18:16)

【資料 87】 参照

【資料 88】 参照

※[認知症介護研究・研修東京センターケアマネジメント推進室](#)提供

お薬手帳の案内（一般用）

(J-HOP メーリングリスト : 3/19 13:04)

【資料 08】 参照

被災地の医療スタッフへの災害掲示板の案内

(J-HOP メーリングリスト : 3/20 10:45)

【資料 06】 参照

介護食等販売・宅配サイト

(J-HOP メーリングリスト : 3/23 23:38)

アルフレッサさんのサイト『[エイヨウショクヒン.コム](#)』でも、食品系の栄養剤扱ってて、宅配も受託してます。

被災地からの情報提供

(J-HOP メーリングリスト : 3/19 17:00)

被災地グループホーム利用者へ細心の注意を

当方で対応しているグループホームが津波被害にあい、避難したのですが、徘徊のため避難所から抜け出して複数名行方不明になるという事態が発生しました。

その避難所は1000人以上避難しているのでなかなかグループホームの介護者がフォローしているのも無理があるようです。

災害被害地におけるプライマリ・ヘルス・ケア

(J-HOP メーリングリスト : 3/20 17:33)

【資料 89】 参照

被援助者から援助者に「ありがとう」の言葉が一方的に流れる。しかし、人間は「ありがとう」を言い続けると卑屈になってくる。卑屈になると力のある人は爆発するが、力のない人は沈黙の世界に入る。

援助を受ける側のプライドとは、自分も必要とされたい、自分も社会から認め

られたいという人間としての 尊厳である。

阪神・淡路大地震の時に救援活動を数カ月にもわたって行っていた真摯な学生が、被災者に言われた。「もういい加減に帰ってくれ」と。まさに乾坤一擲※の叫びである。最も危険な人間関係がスポンサーシップなのである。

※乾坤一擲けんこんいってき：運命を懸けてのるかそるかの勝負をすること

被災者への睡眠に関するチラシ

(J-HOP メーリングリスト：4/08 13:30)

[【資料90】](#) 参照

被災者および一般の方への、災害時に備えた医薬品管理の啓発資料

(J-HOP メーリングリスト：4/19 12:55)

NPO 法人 DLMセンターより、下記の資料（冊子）の PDF 拡散を許可頂きましたので、ご連絡致します。

【資料名】

自分でできる“薬の情報”管理

【提供】

東京大学 大学院薬学系研究科 医薬品情報学講座
NPO 法人 医薬品ライフタイムマネジメントセンター

【配布元】

みんくす

<http://www.ikuyaku-ut.jp/minkusu/>

【注意】

- この資料に関する全ての権利（著作権等）は、提供元に帰属します。
- この資料は、被災地の一般人に向けた資料として、一般人への配布を目的に提供して頂きました。従いまして、ダウンロード後は是非印刷の上、各避難所等への配布をお願い致します。
- 通常の配布元は、「みんくす」で行われております。
上記の注意にもありますとおり、一般の被災者の読み物として作られた資料と伺っております。

「冊子」ですので、印刷すると結構な枚数になりますが、娯楽や読み物のない避難所等におきましては大変喜ばれ得る内容と思います。

ファイルはノートパソコンや iPad 等での閲覧用と、印刷用の 2 種類が用意されております。

【閲覧用】

<http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=79>

【印刷用】

<http://www.j-hop.jp/modules/d3downloads/index.php?page=visit&cid=3&lid=80>

§ 10 : 災害支援報告

活動報告カレンダー

※各帯をクリックすると、該当の報告書にジャンプします

	栃木県	群馬県	宮城県	福島県	岩手県
3月 12日					
13日					
14日					
15日					
16日					
17日					
18日					
19日			09	22	
20日					
21日	01				
22日					
23日					
24日					
25日					
26日		03 04	10		
27日				15 17	
28日					21
29日			14		
30日				11	
31日					
4月 1日					
2日					
3日				28	
4日			19		
5日					
6日				23	
7日					
8日					
9日			35		
10日					
11日					
12日					

	栃木県	群馬県	宮城県	福島県	岩手県
13日			13		
14日				27	
15日					
16日					
17日				29	
18日					
19日					
20日					
21日					
22日					
23日					
24日					
25日					
26日					
27日					
28日					
29日					
30日				36	
5月1日					
2日					
3日					
4日					
5日					
6日					
7日					
8日					
9日					
10日					
11日					
12日					
13日					
14日					
15日					

災害支援活動報告 01

J-HOP ML 3月21日 14:43

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：栃木県

活動地（県名・市町村名）：栃木県

活動日時（日付）：3月21日

活動日数（実働日数）：1日間

【活動内容・連絡事項】

本日、避難所に薬剤師として活動してきましたので、報告します。

活動内容は、おもに、お薬の確認と、もし、受診する場合の受診先のアドバイス、服薬相談、健康相談などでした。約140名の避難者の方々のうち、最初は10名程度の予定でしたが、相談を始めたら口コミが広がったらしく、追加で相談されるかたもいて、最終的に17名のご相談に乗らせていただきました（ニーズは高いと思います）。

なお、栃木市の今日の施設では、ほとんどの方はお薬を持っていました。手帳は1割位、薬情は3割、保険証は全員もっていました。

<相談内容>

- 今飲んでる薬が少なくなってきたので、受診先はどうしたらよいか？
- まだ、薬はあるが、無くなった場合の受診先はどうしたらよいか？
- 子供の目の調子が良くないので、どこに受診したらよいか？
- 体調が悪いので、何か良い薬はないか？

（中略）

また、今回「治療薬確認票」以外に書籍として

- 「今日の治療薬」
- 「保険薬辞典」

の2冊を持参しました。この2冊は役立つと思います。

災害支援活動報告 02

J-HOP ML 3月24日 16:53

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：県

活動先（県名・市町村名）：宮城県本吉郡南三陸町

活動日時（日付）：不明

活動日数（実働日数）：不明

【活動内容・連絡事項】

当院職員の DMAT が南三陸町の志津川小学校の救護支援をおこなってきましたので報告いたします。今後、被災地に行かれる皆さまのご参考になればと思います（私は今回派遣活動しておりません）。

1. 患者数：被災者は 641 名（平成 23 年 3 月 21 日現在）スタッフ数含む
2. 患者状況：平均年齢 80 歳、小児 20 名以下 要介護 10 名以下 ストーマ 2 名 高血圧が患者多い 風邪疾患がではじめる インフルエンザの患者なし
3. 避難所状況：避難所では認知症予防、エコノミークラス症候群の予防目的で体操をしている。プライバシーはない。
4. ライフライン：道路は開通。電気は使用不可、上下水道不可、トイレ使用の水はプールの水で対応
5. 通信：携帯電話はかなり通話しにくい状況、衛星携帯電話は可能（携帯は AU は可能、ドコモは時間帯による ソフトバンク不可）
6. 食事：非常食と炊き出しで対応 3 食とれている
7. 衛生状況：入浴、手洗い不可
8. 医療者：被災した医師 1 名、他数名の医療従事者
9. 薬剤：限りあり
10. 治安：泥棒があった。自警あり
11. 医療救援活動：24 時間体制
12. 他：救急車 1 台あり、情報はテレビ、新聞。ストーブ 7 台、寝具は十分にあり。

これから被災地にいかれる際に、 お持ちいただいたほうがよいと思われるもの

被災地は夜間、早朝にかけかなり寒くなります。毛布、カイロをお持ちいただくことをお勧めします。また防寒着も必ずお持ちください。処方箋や薬袋もお持ちいただくとよいと思います。

薬剤を鑑別できる書籍や今日の治療薬等をお持ちいただくことをお勧めします。医薬品に関しては、3月21日現在ではあまり小学校では数量は少ないようです。現在は不明。

滞在中、ご自分で必要な食糧や飲料は必ずお持ちください。

以上です。これから被災地にいかれる皆さま、くれぐれもご自分の身の安全を第一にご活動ください。

災害支援活動報告 03

J-HOP ML 3月26日 23:59

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：群馬県

活動地（県名・市町村名）：群馬県吾妻郡草津町

活動日時（日付）：3月26日～3月27日

活動日数（実働日数）：2日間

【活動内容・連絡事項】

● 3月26日

緊急募集でしたが5人の有志が集まりました。今日の活動を振り返って。

被災者の皆さんは昨日草津町に到着され、その後受け入れ先の旅館、ペンションに分散して宿泊しておられます。約150名。その中でも今日は町の東側をまわらせていただきました。吹雪き模様のなか、旅館をお訪ねすると旅館のかたが「町からのチラシで見ました。ご苦労様です。」とあたたかく迎えてくださいました。

「行政も認めている」これが今回動きやすかった一番の理由だと思います。これについては、主宰者の義姉さんが町の保健師という関係もありスムーズでした。

調査用紙は j-hop のものを若干改良して150部印刷しました。おおむね良いと思いましたが、書いたものがこちらの手元にのこらないので、出来れば複写などがよいのではと思いました。うっかりして「既往歴」を聞き損ねたりしましたので、副作用、アレルギーのほかに既往歴を聞くように欄を設けたらと思いました。住所氏名などの基礎データはご本人に書いていただくようにしました。

トリアージ：ハイリスク薬使用、急性期（風邪とか下痢、便秘など）慢性期（問題なし）を赤、緑、黄色などで振り分けたらとチェック欄を設けました。

実際に行ってみて、「残薬ゼロ若しくは僅少」「ストレスで尿が出ない」「胸がいつもよりドキドキする」「血圧が心配」「腰を痛めた」「便秘」「点眼薬がほしい」などがありました。

この中で、「残薬ゼロ若しくは僅少」は受診勧奨をして吹雪いていたので、医療機関までお連れすることも今回に限り行いました。（これは難しい問題です。行政では医療機関への送迎はなしと決まっていました。）私たちも、今日が土曜日の午後でなければ行わなかったと思います。

現場ではPCやスマートフォンよりも「紙ベース」が早いと実感しました。先発⇒後発対応表や画像データなどをダウンロードはしてありますが、結局はそれをプリントアウトしたものや、今日の治療薬などの書籍が早く検索できました。また、失敗例としては「シートがピンク色の安定剤」を飲んでいと言われましたがそれが何であるかを同定することが出来ませんでした。画像データはipadならまだ使えるかなと・・・iphoneやipodtouchでは検索しにくいです。

お薬手帳や薬情のある方が多かったですが、全く何もなくて名前が分からないという方もありました。血圧を初めとするバイタルチェックも出来るようになっておくべきだと思いました。明日は家庭用の血圧計を持って行って使ってもらおう予定です。

というわけで、一日目は終了しました。明日もまた活動します。また、結果など（医師の感想なども含めて）まとめましたら、報告させていただきます。

● 3月27日

二日間の活動が無事終了しました。今日は最後に町の健康保健課長（保健師）さんとお話することができました。

今日聞き取りを行った方々の中で2月に心臓手術を行った方、DMの方、足が不自由で旅館での生活に支障がある方などがいらっしゃいました。そういった、早めに保健師さんに対応していただきたい症例をピックアップすることが出来たことは保健師さんからも感謝の言葉をいただきました。介護認定を受けている方は、避難先でもサービスを継続して受けられるようです。そういう確認も必要になってきますね。

DMの方は食事や運動も必要ですが、健康保健課長さんが栄養指導対象者として対応して下さる（まるでケアマネさんのように対応）ことになりました。保健師さんも日常業務の他に被災者対応が加わるので少しでも薬や健康状態についての聞き取りを薬剤師が行うというのは大変助かると言っていました。

避難先で今まで飲んでいた薬を受け取れるのかという不安は皆さんお持ちでしたし、「本当は毎日飲まなくちゃならないけど、一日おきにしているの」という方もいらっしゃいましたので本当に今回このボランティアをさせていただいてよかったと思います。

今後、各自治体で受け入れがあると思いますが、受け入れ早期にトリアージできることが大切です。各地区の薬剤師会（支部組織）が中心となってボランティアできれば平日の夜でも人数さえ確保できれば対応可能だと思いました。

以上、被災地に行かなくてもできるボランティア活動のご紹介でした。（栃木について2例めでし
ょうか？）

災害支援活動報告 04

J-HOP ML 3月29日 11:54

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：群馬県

活動先（県名・市町村名）：群馬県吾妻郡草津町

活動日時（日付）：3月26日～3月27日

活動日数（実働日数）：2日間

【活動内容・連絡事項】

MLの皆様

はじめまして書き込みます。

先日、荒木さんとともに草津にてボランティアをしてきました。偶然にも県内で初めてJHOPの方と一緒に活動できました。この会に入会してよかったなとつくづく感じたところです。

JHOPでの確認票を使いながら各宿泊地を巡りました。後に治療薬確認票（大澤改）で医師記入欄が大変使いやすいものになりましたが、荒木さんの言うとおりに現場では3枚くらいの複写等の必要性を強く感じました。

後で思うところは行動グループで代表的な連絡先を記入しておけばよかったなと思いました。確認票をもらった被災者が後々になって薬剤師に相談したい、だとか確認票をみた医師が薬剤師に確認を取りたい、とか役に立つと思います。後日、これらの行動が読売新聞にも取り上げられました。地域に良い反響があればよいと思います。

災害支援活動報告 05

J-HOP ML 3月30日 15:01

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：熊本県

活動先（県名・市町村名）：宮城県岩沼市・名取市

活動日時（日付）：月日～月日

活動日数（実働日数）：日間

【活動内容・連絡事項】

私は岩沼市、名取市地区でライフラインが復旧してありましたので問題はありませんでした。行き先と時期によって状況は異なってきますので、先発隊から十分な情報収集が一番的確なアドバイスになると思います。書籍は宮城県薬に沢山届いていました。自分の分だけでいいと思います。

清拭できるボディーペーパーは必要と思います。簡易トイレ等は確認して下さい。夜は氷点下になりますので、ズボンのしたにはスキー用のタイツ等が2つあった方がいいと思います。気を付けて行って来て下さい。

災害支援活動報告 06

J-HOP ML 3月31日 21:48

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：福岡県

活動先（県名・市町村名）：宮城県気仙沼市

活動日時（日付）：月日～月日

活動日数（実働日数）：日間

【活動内容・連絡事項】

私は、九山薬剤師会のボランティアチームとして、宮城県気仙沼に入りました。

気仙沼はライフラインはかなり復旧してきています。ガソリンも入ってきています。仙台市内よりはガソリンを入れるのは楽です。ですが、逆に水曜に帰る日は車が多くなって、市街地（被災が大きかった地域）方面へ渋滞していました。

気仙沼では肺炎になっておられる患者さんが多くなってきていて、もしかしたら、重油かもしれないとの事でした。もし、他地区で肺炎が多くならなければ、重油の可能性は大だと思えます。どちらにしても、マスクは必須です。市立病院、バイタルネット（卸）付近は食事の店も開いてきています。

薬剤に関する本は●●先生のお話にもあったように宮城県薬剤師会にありますので、十分足りています。あとは、どこで支援をするかです。ちなみに、D-MAT本部での薬品管理は薬剤師が必要な状態です。また、そこでお世話をしてくださる気仙沼の薬剤師の先生とお話していて、これからは、患者さん向けのパンフレットなどがあると良いなと言う、話になり、九山支援チームに準備していただくかと考えています。

南三陸はまだ電気もきていませんし、かなり厳しい状況です。我々のチームの南三陸派遣グループはアリーナ避難所で、被災者の方達と一緒に寝泊りしています。9時には消灯ですが、その後も薄暗い中で、外回りから帰ってきたチームの調剤をしていたようです。地域でかなり状況が違いますので、行く場所によってはの対応が必要です。

災害支援活動報告 07

J-HOP ML 3月31日 22:16

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：福岡県

活動先（県名・市町村名）：宮城県気仙沼市

活動日時（日付）：月日～3月30日

活動日数（実働日数）：日間

【活動内容・連絡事項】

私は宮城、気仙沼より昨日帰ってきました。九山薬剤師会のボランティアチーム11名の中の2名が石巻に入りました。そこで、赤十字病院と避難所周りに分れて活動したようですが、石巻チームにも、こちらで得た情報（掲示できるものや確認表など）を、以前許可を得ていましたので、持って行ってもらいました。上手く活用していただけたかは、分かりませんが、南三陸に行ったグループにも渡していただきましたので、掲示はしていただいていると思います。

南三陸の場合、仮説診療所（アリーナ避難所）のようになっているところにこられる方は、お薬手帳を持ってこられる方が多かったようで、正直びっくりしたし、非常に助かったと南三陸グループが行っていました。逆に気仙沼は私の印象だけではお薬手帳はあまり見ませんでした。

すみません、一応報告させていただきます。

災害支援活動報告 08

J-HOP ML 4月1日 00:50

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：高知県

活動先（県名・市町村名）：福島県福島市

活動日時（日付）：月日～月日

活動日数（実働日数）：7日間

【活動内容・連絡事項】

みなさま。

今週1週間、福島市を拠点に活動したものの報告をさせていただきます。

1：概要

- ①ミッション：県北保健所管轄エリア避難者への支援
- ②エリア状況：地震、津波ともに大きな被害は無し。
- ③避難者：県北保健所管轄エリアの避難者は、すべて浜通り（海岸側のこと：相馬、波江、双葉など）の住民。津波による被害と原発による避難命令を受けた方々。

避難所合計：76カ所

（福島市内30、二本松市22、伊達市9、本宮市2、桑折町2、国見町3、川俣町1、大玉村7）

合計収容人数：約8600人

2：具体的なボランティア仕事内容

- ①避難所での薬相談と処方：必要ボランティア合計4名

以下の2カ所の避難所には薬剤師が常駐する：9～17時

1) あづま運動公園体育館 1300人：2名

2) パルセ飯坂 470人：2名

各、避難所の細かいルールは省略。

②慈恵医大チーム（以下 team）に合流して避難所巡回

必要ボランティア：1名：9：30～16：00

朝9：30自治研修センターへ行き、そこで team に合流。割り振られた避難所を車に同乗させてもらい一緒に巡回。用意されている薬セットとともに、医師の診療後の調剤、投薬、服薬指導。慈恵医大の薬剤師が来てくれれば、薬剤師会からの派遣は不要と思われる。

※薬セット

team が持っているもの+福島県薬剤師会で用意して team に譲渡したもの（team の車に積んで移動している）

※①②ともに薬剤師会へは朝8時～8時半もしくは夕方に行き報告をする。報告は薬剤師会に常駐している松本事務局長もしくは佐藤課長まで。

3：ライフライン、生活など

●ガソリン：

緊急車両：スムーズに満タンに出来る。

一般車両：少し並ぶが、ほぼ正常化に近づきつつある。

●水、電気、ガス：問題なし。

●宿泊ホテル：平常。入浴可能。布団あり。寝袋不要。

●食事：居酒屋、ファミレス、吉野家、Mac など90%営業。食事を持ってくる必要は全くない。

●飲料水：コンビニも通常営業している。水は東京より売っている。持ってくる必要なし。

●気温：徐々に暖かくなってきているが、朝晩は寒い。避難所の中はコート不要。

●服装：動きやすく少々汚れてもよい服装ならなんでもよい。防災服である必要なし。底冷えする場所があるので、靴下は少し厚手がよい。防寒下着は有用。

薬剤師であることを示した上着、チョッキ、もしくは腕章は必要。薬剤師であること、また災害派遣であることを記した名札は絶対必要（これがないと避難所への自由出入りをさせてもらえないこともある）。

4：今後の見通し

県北保健所エリアに関しては、医療機関、薬局のすべてが正常化し、ガソリンも充足してきたこともあり、避難所の方々は徐々に避難所近隣の医療機関にかかるようお願いしている。

つまり、避難所併設の救護所、および巡回診療は慢性疾患は診ず、どうしても通院できそうにない方や避難所での急性疾患の対応にとどめるようになる。

すでにこのスキームは進行しているし、これから仮設住宅の建設および、原発避難解除が進めば、一気に前述の避難所は閉鎖もしくは縮小されていくと思われる。

そうなれば、巡回チームは派遣を終了するとのこと。また、2カ所の避難所へ常駐する薬剤師も1名もしくは不要となると思われる。

以上

災害支援活動報告 09

J-HOP ML 4月1日 08:51

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：北海道

活動先（県名・市町村名）：宮城県石巻市

活動日時（日付）：3月17日～3月21日

活動日数（実働日数）：5日間

【活動内容・連絡事項】

はじめまして北海道薬科大学●●です。

私たちのチーム（と言っても2名）も17日～21日まで石巻で活動してきました。市役所内仮設診療所内や石巻高校仮設診療所の立ち上げ、運営を行って来ました。

私たちが活動していた避難所内の方はお薬手帳や薬情の持参率が非常に高く驚くとともに、日頃から積極的に活動されている石巻の先生方の活動を垣間見る事が出来ました。

本当に薬手帳に助けられた活動でした。

災害支援活動報告 10

J-HOP ML 4月1日 11:06

【支援者情報】

職種：医師

住所（都道府県）：千葉県

活動先（県名・市町村名）：宮城県南三陸町

活動日時（日付）：3月26日～3月27日

活動日数（実働日数）：2日間

【活動内容・連絡事項】

千葉県医師会 JMAT の習志野市医師会災害医療チームの一員として宮城県南三陸町にて 3 月 26-27 日の 2 日間、診療してきました。

習志野市医師会災害医療チームは一般内科 1 名、循環器科 2 名、小児科 1 名、整形外科 2 名（開業医 3 名勤務医 3 名）、看護師 2 名で、これに私と義肢装具士の 2 名が加わり、リハ機器会社から寄贈された各種杖および既成短下肢装具、腰部コルセット、膝サポーター、装具修理機器、とろみ剤を持参して参加してきました。

南三陸町には医療チームはすでに 30 程度入っており、現地対策本部があるベイサイドアリーナに検診車を利用した最低限の検査もできる医療室および医療本部が立ち上がっており、医薬品も比較的十分でした。

朝 7 時 30 分 には各医療チームリーダーが集合してミーティングを開始し、地域の役割分担と注意事項や連携などの報告が行われ、一日の診療活動が開始するスタイルがとられており、ミーティング時にリハ医と義肢装具士がいることをアナウンスしたところ、障害児の装具修理の依頼と、他チーム患者の整形外科疾患にてコルセットの要望がありました。

コルセットを渡してから、習志野市医師会とは別行動で小児の自宅まで行って短下肢装具の修理施行。その後熊本県の保健師チームと一緒に、壊滅集落の高齢者中心の避難所(民宿)などを回って、主にシルバーカーを流されて歩行困難となった高齢者 8 人に杖処方と機能評価・自主トレ指導して午前中は終了。

午後は本部に戻り、痛みにて歩行困難な変形性膝関節症の患者 2 名にロフストランド杖、膝サポーターを渡し、短下肢装具を流された障害者に既成短下肢装具を修正して渡して 1 日目は終了。

夕方、本部から離れて、地域の中規模避難施設にバスを停めて習志野市医師会チームでバス内宿泊。

翌日は同避難施設内の高齢歩行機能低下者 7 名に杖処方および杖修正、機能評価と自主トレ指導を行い、移動して住宅破壊をまぬがれた在宅寝たきり被災者の褥瘡と嚥下機能チェックと指導（とろみ剤渡し）を施行、その後医師会チームともに地域避難所を巡回しながら前日修理した装具のチェックなどを行って 2 日間の医療活動は終了しました。

南三陸町では、要介護者はすでに連れ出されていて、地域避難所には要支援レベルの高齢者が中心のようでした。要介護者の一部は家族が連れて行ったと聞きましたが、それ以外の方がどこに行ったかは不明です。今後は亜急性期の障害者だけでなく、移動した（させられた）要介護者の機能低下についての対応も考えていかなければならないかと思われまます。

今回の被災地でのリハ医による災害医療のキーワードは、医療チーム全体へのアナウンス、特に保健師からの情報収集とラウンド、各種杖さらにシルバーカー？でしょうか。

また、待っていてもリハ医の活動要請はさほど出てこないのも、自ら地域巡回ができるように独自の移動手段（車）があった方がベターと感じました。

以上ですが、今後の被災地医療に行かれるリハ医の先生方に参考になればと思い報告させていただきます。

災害支援活動報告 11

J-HOP ML 4月1日 13:12

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：茨城県

活動先（県名・市町村名）：福島県いわき市

活動日時（日付）：3月30日～3月31日

活動日数（実働日数）：2日間

【活動内容・連絡事項】

私ども茨城県西部は屋根瓦が落ちたり、塀が崩れたくらいで、被害は比較的小さく済みました。時間が取れましたので、3月30日、31日に、福島県南部のいわき市に災害ボランティアとして入ってきました。

●状況報告

まず、薬剤師が足りません。土日は近隣の薬剤師の方々がボランティアとして入っていただけますが、月曜日から金曜日が不足しています。「長丁場になりそうです。1日でもいいので手伝っていただきたい」と、いわき市薬剤師会長の長谷川さんから伝言がありました。今後、各県薬単位で予定は組まれると思いますが、平日休みがとれるようならば近隣の方、1日でもお願いしたいとのことでした。

●活動内容

現在、いわき市内38の避難施設を、医療チーム8～10チーム（JMAT）で巡回しています。薬剤師を含めた5人くらいの単位で動いているチームもありますが、薬剤師を伴わないチームに我々ボランティアが付きます。

朝、出発前に使用しそうな薬剤をかき集めて段ボール箱にセットします。早いチームは9:00頃、遅いチームは11:00ころ出発します。1チーム4か所くらいの避難所を巡回します。避難人数200名のところから10名のところと、まちまちです。17:00から一堂に会してミーティングをして、申し送りと、明日の担当場所が言い渡されます。

1日目：福島県立医科大の医師、看護師、技師、と私の9名で4か所巡回しました。下肢静脈血栓症（DVT）を中心に診察して回りました。4避難所をまわり、薬が処方されたのは13名でした。（かぜ、不眠、高血圧、アレルギー、血栓症予防など）

2日目：東京日本橋医師会のDrが1人で来てくださったため、私と2人で3か所の避難所を巡回しました。1か所2時間くらいかけて、血圧を測ったり話を聞いたり。3避難所で薬が処方されたのは12名でした。（かぜ、血圧、不安、下痢、胃痛、便秘、など）

最近は、緊急性の薬剤でなく慢性疾患の薬がなくなってしまっという方が多いようです。またストレスなのかいつもよりも血圧が高い方や精神的に不安定な方などが見受けられました。

市中の医療機関も診察を再開しており、今までの医療機関に行けるようであればそちらにと話しております。間に合わせの薬は7日分で調剤しています。1日だけでも全く問題なく活動できると思います。是非、時間の取れる方お願いいたします。

災害支援活動報告 12

J-HOP ML 4月1日 23:29

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：県

活動先（県名・市町村名）：

活動日時（日付）：月日～月日

活動日数（実働日数）：日間

【活動内容・連絡事項】 4/1 23:29

本日、●●先生との打ち合わせで、第3ユニットは市立病院には行かず。大島一人、避難所4人になり、避難所対応の人力増を生かし今まで訪問出来なかった避難所を開拓、支援するという新たな局面を探る事となりました。

災害支援活動報告 13

J-HOP ML 4月4日 02:51

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：埼玉県

活動先（県名・市町村名）：宮城県いわき市

活動日時（日付）：4月3日～4月3日

活動日数（実働日数）：1日間

【活動内容・連絡事項】

4月3日いわき市で活動を行いました。情報共有させていただきますがあくまでも日薬・日病薬公式のボランティアではないので参考程度で。

4月3日現在 いわき市ライフライン情報

電気：90% 沿岸部は×

水道：飲用できるのは10%

ガス：未定

携帯：各社OK

避難者：3400名

避難所：市内40か所

持参物：今日の治療薬、筆記具、ハサミ

あれば尚可：薬剤師であることを識別できるもの

※ガソリンは休日は入れるのは困難です。

※拠点の医師会近くはスーパー・ファミレスが復活しています。

※基本の薬剤師ボランティアの申し込みなどは日薬・日病薬などの公式ルートでお願いいたします。

※必要なスキルは無し

※必要なマインド やる気 元気 ○わき

※車の持ち込みは歓迎しますがガソリンは満タン状態でいわき入りをお願いしたい。

●私の行った主な業務内容

8:30 いわき医師会集合 18時まで拘束

AM

避難所衛生調査 およびOTCの補充。2人ペアで数か所まわります。(いわき市は避難所の環境悪化でで無くなられた方はいません。長谷川市部長といわき医師会のご尽力のたまものです。)

PM

JMATでチーム編成に組み込まれ薬剤の識別・交付

チーム編成医師2、看護師1、薬剤師3←特別編成

電波状態良好でiPadでの識別が重宝された。お薬手帳の持参率は3割程度

薬剤師が血圧測定できれば尚可(課題)

※ライフラインや支援状況は毎日変わりますので都度確認お願いいたします。

災害支援活動報告 14

J-HOP ML 4月4日 08:26

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所(都道府県)：千葉県

活動先（県名・市町村名）：宮城県石巻市

活動日時（日付）：3月29日～3月30日

活動日数（実働日数）：2日間

【活動内容・連絡事項】

※車を運転される方は、外履き（登山用の靴か安全靴）・上履き以外にも運転用の靴をお持ちになることをお勧めします。

石巻高校 救援本部 薬剤師班

●環境：

石巻市の南日和山のうえに立つ高校、地震・津波の影響をほとんど受けていない。発生時から4～5日は周りがすべてがれきと水で水没しており、孤立していた。

高校の南側、西側の山のふもと、門脇町から海までの地域は津波ですべての家屋がさらわれ、壊滅状況。北側は石巻駅・市役所のある市の旧中心街、商店、飲食店が軒を並べていたが、水没と津波による破壊があり、船が町のなかに流されている。東側がだいぶましであり、車の通行が十分に可能なところまで、回復している。ただ日々状況が改善されており、刻一刻と変化している。

●この救援班の活動：目標は衛生制覇と最低医薬品の確保・供給（3月30日時点）

●イベント：番号は「必要薬剤師数」「活動内容」とリンク

- ①石巻高校内診療所での調剤業務
- ②メロンパン部隊での同行、処方薬剤の確認
- ③市内200か所の避難所訪問支援、女川町・男鹿半島周辺の集落、避難所への支援訪問
- ④日赤医療チームで薬剤師のいないチームへの薬剤師の供給

●必要薬剤師数：

- ①2～3名（地元の先生2～3名看護師薬剤補助2名）
- ②2～3名
- ③2～5名（車1台に2～3名）
- ④要望に応じて2名くらい
- ⑤予備＋リーダー 各1名

●活動内容

①石巻高校内診療所での調剤業務

石巻市立病院が壊滅状況でそのの医師と診療所が壊滅であるが助かった医師が高校のなかの会議室で診療所を開設しており、そこでの調剤業務を手伝う。1日200～260人くらいの方が受診される。

調剤に関しては、地元の先生が2人、31日より市立病院前の会営薬局の薬剤師が1人入り、そこに2人くらい支援に入る。基本的に後発品はなしで、先発品で対応、また薬品の読み替えな

ど、薬剤師に責任と裁量で任されてる。また薬剤の仕入れも始まっており、問屋 2 社が動き始めた。

慢性疾患などの希望は医師がほとんど、聞き取りで同様のものを処方、それに対応していく。
手書き処方箋・手書き薬袋で PTP

②メロンパン部隊での同行、処方薬剤の確認（なぜメロンパンというかは不明）

地元医師、看護師、事務、薬剤師でのチームで避難所をまわり、診療にあたるが、医師は処方せんを発行、その際、薬剤のチェックすることと、その処方を地元薬局へ誘導する（残った地元薬局の業務を支援する）。

③市内 200 か所の避難所訪問支援 女川町 男鹿半島周辺の集落、避難所への支援訪問

人口 2 2 万人の宮城第 2 の都市であるが、中心部以外の人口も多い。非常に広い市である。

市内中心部 105 か所（3 月 31 日現在）のうち、その中心となっている 7 か所への物資の支援は 29 日 で終了。基幹避難所はモノがあふれている。他の避難所へのフォローを開始する。要望のあった薬品を持参しながら、そこのインフラ・環境・衛生状況を確認 し、責任者や保険・医療担当者に提案と要望を聞いていく業務。市内でも道の細い個所はがれきと泥で軽自動車しかとおれないような道であり、また後片付けを している方たちも 2 週間以上たって疲労困憊しながらの作業で注意を要する。

そのような中にある避難所では幹線道路沿いとどの要望はことなる。

共通している課題は避難所での食事で、それは炭水化物（米・パン）が中心でそれ以外ほとんど支給されず、十分な量はない。栄養管理が必須で、ビタミン剤の配給をして被災者への投与をお願いしている。

30 日より中心街以外に男鹿半島、女川町のフォローを開始。まず市内に近い男鹿半島の入口の 7 か所の避難所（小さな集落）を訪問、目薬・カットバン・風邪薬・胃腸薬などを持参し、手製の OTC 要望書を持参して調査していく。インフラは整備されてない。自衛隊の物資の供給と衛生携帯電話の支給があり、20～80 人 くらいの集団で大きな家やお寺・小学校・集会所などに避難している。医療の支援がほとんど入っていないので、要望が多く上がってきた。また道路にひびが入り、車の通行ができない個所へは、徒歩で入った。手前の集落で、医薬品がなく困っているという話を聞いての訪問であったが、この箇所はまだまだ孤立していくものと思える。物資は海から自衛隊が運んでいるが、細かな要望までは対応していない。

女川町においては中心部は壊滅状況でみるも無残な状況である。高台にある病院も 1 階部分まで水がきた。町の機能は総合体育館にあり、そこには自衛隊が多数支援に入っている。そこで町の避難所の様子と資料をもらい、町から離れたちいさな集落をメインに支援に入る。三陸方面への 7 か所の 8～80 人程度の避難所で要望を聞き取った。要望内容がまだまだ医療としての品物の要求があり、医療チームも含めた支援が十分とはいえない。1 週間前に入った日赤チームへの要望品がまだ届いてないのでどうにかして欲しいなど話が出る。しかもガソリン不足もあり、診療所までいく足もなく困っていた。

④日赤医療チームで薬剤師のいないチームへの薬剤師の供給

これからの課題として、医師・看護師しかいないチームへの薬剤師の帯同業務。ここでは持参している薬剤から医師の要求する医薬品を選び、患者に供給していく業務である。ここに配属されると4～5日は一緒に生活を送りながら、各地を転々としていく。

⑤その他1

新たなイベントとして女川総合体育館への薬剤師の常駐が発生。朝、総合体育館にはいり、被災者へ様子聞き取りながらOTC薬の供給と健康管理をしていく。また体育館内の環境の改善、提案をしていく。

⑥その他2

石巻高校の救援本部の管理、必要な医薬品などの発注、薬剤師の手配、宮城県薬との調整、石巻薬剤師会責任者のフォローとリーダーの引き継ぎ（イベントの推進、整理、連携）

●感想

今回の災害の支援に入らせていただいて、薬剤師の本来の求められている業務とはなにかを考えるよい機会になりました。避難所から夜、具合が悪いので見てもらえないかという要望に対して、OTCで対応できるのか、医師へ引き継ぐべきか、判断を求められながら、避難所に行く手間仕切りもない狭い空間で、お年寄りが息苦しそうにしている。ぜんそくの発作の前触れかと思いながら、劣悪な環境の改善と咳止めで様子を見ていくことに。保健室のベットへの移動をお願いして様子を見ていただいた。夜中に廊下を歩いているその方を見て声をかけたが、落ち着いていた。整った避難所では医師も日中の業務で疲弊している中で、いつでも呼べばきってくれる体制ができています。

小さな集落への訪問は明るく元気な子供たちやお母さん方に迎えられての訪問で、こちらが励まされているかと思うほどである。なにもかもなくしてしまっただの身着のまま、避難所にいる方々が頑張っている姿はとても素晴らしいものです。ただ災害が発生して2週間以上がたち、精神的な疾患が増えてきています。診療所では寝れない、夜になると思い出してしまうなど、訴えが外傷が減ってきており、また衛生面での病気で皮膚疾患が多数発生していると思われます。

このように避難所1つ1つで要望がことなり、それに対応した細かな支援こそが重要であると思われれます。そのためにはこまめに、訪問して話を聞き取る作業が必要で多くの薬剤師が長い期間にかけて、支援に入っていくことが肝要です。

顔の見える薬剤師をつくるよい機会です。また今回の震災でアナログであるお薬手帳の価値が見直されました。全国民が1人1つ持つ日がくるかもしれません。

支援に入らせていただいた宮城県薬のみなさま、石巻の菅野先生、関係者の方々に感謝いたします。

災害支援活動報告 15

J-HOP ML 4月4日 10:36

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：九州山口編成

活動先（県名・市町村名）：宮城県気仙沼市

活動日時（日付）：3月27日～3月29日

活動日数（実働日数）：3日間

【活動内容・連絡事項】

九州山口薬剤師会第2班 報告

気仙沼チーム

3月27日

12:00	国見サービスエリア着 12時40分 給油完了。
13:30	宮城県薬剤師会に到着→挨拶に伺いましたが、14時からの宮城県薬剤師会連絡会議？があるということで、16時30分まで宮城県薬剤師会で足留め。ただその場で、気仙沼 ●●先生にお逢いできて、引き継ぎの内容を確認。 ●●先生より、気仙沼市立病院は4月より院外に処方せんを出すので、手を引きたいこと、東京からのDMATの残っていた薬の仕分け、足りない薬の発注をして欲しいこと依頼が有りました。階上中学の OTC 相談は引き続きで、お願いされました。 ちなみに保健所は17時に帰ってこないといけない縛りが有るので、東京薬剤師会（宿泊地が保健所）もバイタルネットにお世話になるかも？とのこと。
18:00	バイタルネット（宿泊地）到着 ●●先生と再度打ち合わせ。階上中学校にて OTC 相談、気仙沼市立病院にて監査業務、（離島）大島DMATに参加、調剤・巡回。車が一台しかないため、DMAT本部（すこやか）→保健所→市立病院→階上中学校の順に移動

3月28日2日目

●OTC相談班：階上中学校

保健所にて、OYC薬選別、持ち出し。階上中学校に9:30分到着。体育館の救護室（スタッフがおられる）に挨拶して、校舎の保健室にあるT-MAT（徳洲会）に挨拶、打ち合わせ。近隣開業医が開院しだったので、徳洲会のほうは少しずつ、縮小していくとスタッフからの情報あり。

インフルエンザ・ノロの疑いがない患者さんはOTCで対応してもらっていいとの話があり

ました。備蓄薬品目を聞かれたので、リストアップしてT-MATに種類と成分を一覧表にして渡しました。

ステージ前に「お薬相談」ブースを作って、A4サイズのポップをつくってアピールした（各避難所に統一されたポスター・ポップの準備が必要だと思います）。当初、お薬が無料であることを知らない人が多かった為に、敬遠されていたが、無料である理由を説明すると、納得して持ち帰られた。

要望が強いOTC薬を保健所に情報提供した。避難所の要望が高いものとして、アレルギーの点眼、冷シップがあり、是非必要と感じる物に、カマグ、ピオフェルミン、麦門冬湯があります。上記三点については、OTCでも置いてある成分ですから…。とすることで、すこやか（DMA T本部で医薬品管理している）あたりから、手に入りませんか？

17:00	D-MAT 災害本部にてDMA T会議参加（後述）。
-------	----------------------------

●気仙沼市立病院：

保健所にて、OTC薬選別、持ち出し手伝い

09:00	外来調剤監査業務約 900 枚、入院調剤監査
14:30	医薬品補充作業、掃除
16:30	D-MAT 災害本部到着、薬品整理（ジェネリックに先発品を記載）
17:00	D-MAT 災害本部にてDMA T会議参加（後述）。

●大島 D-MAT：

07:45	D-MAT 災害本部（すこやか）到着
08:00	D-MAT 会議参加、リーダー医師より、栄養状態の把握するようにとの依頼あり。
09:00	フェリーにて大島へ渡り、大島災害本部（大島公民館）にて本日の活動の打ち合わせ。
09:30	診療開始。薬剤師は3名。東京都薬剤師会の薬剤師は大島小学校にて調剤、当班および山形県立中央病院薬剤師は、巡回診療に同行し、調剤・処方支援を行った。巡回診療29名訪問、調剤5件、日配布予定の調剤4件。巡回した患者はおおむね栄養状態良好。
14:30	大島災害本部にて診療活動報告後、フェリーにて、本土へ。
15:30	D-MAT 本部にて、薬品整理。
17:00	D-MAT 災害本部にてDMA T会議参加（後述）。

●D-MAT 会議：全員参加

気仙沼市として、栄養士による栄養管理や、プライマリケア学会褥瘡チームによる介入が始まるとの報告あり。リーダー医師より、本部での向精神薬の保管について指摘があり、鍵がかかる箇所での保管が必要な向精神薬を仕分けした。

3月29日3日目

OTC相談班：階上中学校

09:00	面瀬中学校（被災者200~300名）到着、本日午後から1日限りのOTCお薬相談会をしたい、との旨を責任者に交渉し、許可を得た。
09:30	階上中学校にて、校舎にいる被災者の方を巡回し、必要なOTCを配布した。昨日は体育館のみの活動だったため、校舎にいた被災者には、情報が伝わっていなかった（情報発信の方法は考慮したい）。
11:00	一名が階上中学校に残り、引き続きOTC配布（体育館・校舎）を行った。もう一名が面瀬中学校へ向かい、昼食が完了するのを待ち、ブース開設。体育館にてOTC配布を行った。最初に拡声器にて、体調・お薬の相談及びOTC配布に来たことをインフォメーションしたため、ブース開設と共に被災者が集まった。同じ場所で奈良の保健師が既に健康相談をしていたので避難所の状況と活動内容を聴取・共有し、協力して活動できる体制を整えた。面瀬中学校では、同様の活動が継続して行われる予定。
14:30	階上中学校に芸能人が慰問訪問に来るとのことで、ステージ前に設置していたブースを撤去。面瀬中学校での活動に合流。 避難所の男性被災者は、昼間は仕事で不在になるため、帰宅する夕方まで活動を行い、18:30撤去。保健所倉庫にOTC薬を戻し、活動終了。 保健所が今後入手予定のOTC薬のリストを入手し、重点的に購入を希望する品目について情報提供した。

●気仙沼市立病院：

08:00	他病院からの処方薬の薬剤鑑別・聞き取り（地区医院が起動していない為、病院に集中）
09:00	外来調剤監査業務約900枚及び他医院からの処方薬の薬剤鑑別、入院調剤監査
14:00	薬剤補充及び外用剤等の袋詰め・予製。市立病院薬局長より得た情報として、4月4日より市立病院の門前薬局3店舗は再開予定。震災前は4店舗だったが、1店舗は再開不能にて閉鎖予定。再開以降も当分の間は全面的な院外発行はしない。全面発行は1年後になるのではないかとこの予想。
16:30	撤収

●大島 D-MAT：

07:45	D-MAT本部到着、薬品整理
08:00	D-MAT会議参加

09:00	フェリーにて大島へ渡り、大島災害本部にて本日の活動の打ち合わせ。DMATに2件の往診依頼があった。本日より巡回は往診のみ、本日は精神科Drも診察することを報告。
09:30	診療開始。薬剤師は前日と同じ3名。1時間のみ巡回診療に同行し(訪問5件)、前日に約束した処方書を交付。その後、東京都薬剤師会の薬剤師と共に大島小学校にて調剤及び処方支援を行った。調剤枚数58枚。
14:30	大島災害本部にて診療活動報告後、フェリーにて、本土へ。
15:30	D-MAT本部にて、薬品整理及び不足薬品の入手依頼。
17:00	D-MAT災害本部にてDMAT会議参加(後述)。

●D-MAT 会議：全員参加

肺炎患者が増えてきているとの報告あり。原因はさまざまだと思うが、気仙沼の場合重油が原因の可能性ある為、十分観察が必要であること、マスク着用は必修であるとの指摘あり。リーダー医師より、薬剤師への要望として2点指摘あり。

- ① 本部での薬品管理について、9:00～17:00の間も薬剤師に管理してほしいとの要望あり。しかし、マンパワーの問題もあり、検討する、とのみ回答。気仙沼薬剤師会へ、人員調整をお願いした。
- ② 向精神薬・毒薬の管理を任せたい(夜間は本部の鍵がかかる倉庫へ移し、入出庫の記録をつけること)

以上

○気仙沼薬剤師会の●●先生とのミーティングでプライマリーに移行していくにあたって、避難所での健康管理、心のケアが重要になっていく為、被災者向けにインフルエンザ・ロタウイルス・肺炎などの健康管理、対処療法に関する物、また、心のケア管理等のパンフレットやリーフレットがあれば、避難所周り薬剤師に持参してもらい、配布してもらえるようになるというが・・・との提案・要望あり。

○避難所の衛生管理をしていきたいが、何が必要かなど、管理強化が十分でない。まだ、行っていない避難所の確認と衛生管理を強化したい。

○DMATからは、インフルエンザは罹患・疑いの患者が数名いるものの、広がりはない。ロタウイルスも数名に留まっている。肺炎患者が増えてきている、亡くなった方もおられるよう。市役所が壊滅状態で、職員も被災している人が多く、市役所職員の食事状態は悲惨のよう。被災者を含め、今後、メンタル面のケア・栄養管理が必要となってきている

○宮城県薬剤師会で気仙沼私立病院の現状、門前薬局・その他の薬局の状況を説明し今しばらくの支援が必要かもしれないと報告しましたが、県薬剤師会としては出来れば、市立病院に関しては出来れば、病院薬剤師会に支援をお願いし、県薬剤師会としては、もっと地域に目を向け、まだ、訪問できていない被災地、避難所の開拓・支援を行いたいとの説明を受けまし

た。

○ライフラインは一部を除いて、かなり復旧しており、電気、水道、ガスに問題なし。ガソリンスタンドも開いてきており、他地区に比べるとガソリン・灯油購入のための待ち時間は少ないと思う。食事処も、徐々に再開出来ている所あり。自販機も動いているところあるが、コンビニには物が入らないという理由もあり、まだ再開できていない印象あり。

○夜、空を見上げると、一面眩いばかりの星・星・星・・・災害があった土地ではあったが、福岡では見られない、夜空の素晴らしさに、癒されてきました。きっとこの街は大丈夫だと感じました。

災害支援活動報告 16

J-HOP ML 4月4日 15:24

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：大阪府

活動先（県名・市町村名）：岩手県上閉伊郡大槌町

活動日時（日付）：不明

活動日数（実働日数）：不明

【活動内容・連絡事項】

昨日4月3日大阪府薬剤師会館で、平成23年度薬学生実務実習の説明会がありました。説明の前に、ボランティア薬剤師として大槌町に行かれた方の報告がありました。（行かれた時期を聞き逃しました。）

（勘違い、聞き違いがあるかもしれませんが）

JMATのチームとして大阪の医師2名と看護師1名と共に参加されたそうです。元々JMATには薬剤師は含まれていないそうですが、今回参加されたそうです。

高校が臨時の診療所になっていて、医師などはおられたそうで、他の避難所をあちこち回ったそうです。

避難所に来れないご高齢の方々については、町会(?)の方が1軒1軒回って、把握されていて、そのお宅にも回ったそうです。「まさに被災地で在宅医療をしました。」と話されていました。

薬袋は有ると聞いていたのに、無くて、紙に用法用量を書いて、薬のシートをホッチキスで止めたそうです。仮設薬局が作られて、卸さんから1日1回配送がある状態で、処方箋(メモ書きのようなもの)が10枚ほど溜まると仮設薬局に取りに行っていたそうです。

大部分の人がお薬手帳を持っておられ、非常に助かったそうです。避難所に避難している人々は、水が引いてから自宅に手帳を取りに戻ったらしく、びしょびしょだったそうです。

ジェネリックなどもあり、薬に関する知識は薬剤師が圧倒的に多いので、JMATにも薬剤師が必要と感じたそうです。グリセリン浣腸がなく、摘便にサラダオイルを使っていたそうです。そうすばかりで申し訳ございません。映像も少し見せていただきましたが、あちこちで鼻をすする音が聞こえました。

ボランティアに行かれた皆様、これから行かれる皆様、ただただ頭が下がる思いです。ずっと、拝見しておりますが、何もできない自分が書き込む事があまりにも薄っぺらな気がしております。

災害支援活動報告 17

J-HOP ML 4月5日 16:11

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：山口県

活動先（県名・市町村名）：宮城県気仙沼市、石巻市、南三陸町

活動日時（日付）：3月26日～3月31日

活動日数（実働日数）：4日間

【活動内容・連絡事項】

3月26～31日の6日間、災害派遣薬剤師として宮城県に行ってきましたので報告します。

山口県からの移動等のため実際現地で活動できる期間は27日午後7時30分から30日10時30まででした。九州山口ブロックから14名参加（山口3名）し、宮城県薬にて現地状況の説明を受けた後、気仙沼地区（5名）、石巻地区（5名）、南三陸地区（4名）に別れ支援活動にはいりました。各地区により被害状況が異なるため薬剤師の支援業務も多少異なる様です。私は、南三陸地区に入りましたので、そこでの活動について報告します。

南三陸町は人口18000人程度の海岸に面した町ですが、報道されてる様に津波でほぼすべての建物が崩壊して9500名が避難所生活を送っています。町にあった病院、診療所、薬局すべてが崩壊し機能してません。一番避難者が多いベイサイドアリーナ（1500名）内に臨時診療所を開設し、その一面に調剤所が作られています。その場所が我々の活動拠点になります。靴箱、ダンボール等を使って調剤棚を作り、例えば露天商のような雰囲気です。現地にて活動してる薬剤師は、日薬から災害派遣された各県の薬剤師が総勢5～10名、それ以外に地区内避難所（45箇所）の巡回診療を行うために全国の医師会、病院から派遣されているDMATチームの薬剤師がいます。ライフライン（電気、ガス、水道）がない状況の中で、出来る限りの医療体制を構築してる最中です。

医薬品の供給が悪く（ガソリンがない、一番近い卸が車で2時間）今確保出来てる650種類の医薬品（内服、外用、注射）の中から、医師等の医療スタッフと連携しながら最低限の投薬を行っています。具体的な仕事内容は、避難所内の調剤（？）が1日200枚程度とDMATへの医薬品供給、在庫管理が主になります。さらに今後は、薬剤師が帯同していないDMATチームに参加し、避難所の巡回診

療での医薬品供給が必要になると思います。災害から2週間以上経ち、外傷等の救命処置ではなく、慢性疾患の管理が中心になってきています。

今回の災害派遣で一番感じることは、現地において薬剤師が必要とされているという事です。全てが津波で流された避難者たちの慢性疾患治療のためには、いままで服用していた薬剤の確認が一番大事になります。これだけ分業が進み、多くのジェネリック医薬品が流通する現状の中で、医師には薬の確認は難しく、薬剤師がするしかありません。限られた薬の中での処方においても、医師と相談しながら決定していました。

チーム医療における薬剤師の役割、何が出来るのか、どの様な知識が必要なのか、災害派遣を通じて考えさせられる経験をさせていただきました。この3日間は、私の薬剤師人生の中で、不謹慎かもしれませんが、最も充実していたかもしれません。今回の薬剤師災害派遣は、継続して行わなければなりません。まだまだ人員が足りませんので、迷われている先生がおられるなら是非参加してください。現地での生活は、多少不便ですが、短期間ですので問題はありません。私は、帰ったばかりですが役に立てるならもう一度行ってもいいと思っています。

災害支援活動報告 18

J-HOP ML 4月7日 21:16

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：東京都

活動先（県名・市町村名）：岩手県陸前高田市

活動日時（日付）：4月5日～

活動日数（実働日数）：不明

【活動内容・連絡事項】

現在岩手県の陸前高田におります。東京都の医療班として薬剤師班にて火曜日より、現地に参加しております。現状では、テレビ等で見ていた光景とは比べられないほどの光景ですが、地元の方々には、必死に明るくされているように感じます。東京都の医療班に同行する薬剤師は、特養に同行しての活動です。

また、地元の気仙薬剤師会の先生方々のお力になるように、避難地区の各避難場所に、OTCの相談配布を実施しております。実際OTCを入手することは不可能状態ですので、地元の薬剤師の先生方と協力して巡回しています。

この時期非常にニーズが高く、薬剤師の行動が皆様の力になることを感じながら、地元の方々、地元の薬剤師の先生方に力をもらって、活動しています。今週いっぱい活動予定です。

OTCの薬剤師の活動も重要と本当に改めて、つくづく感じている今です。報告まで。

災害支援活動報告 19

J-HOP ML 4月7日 13:06

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：千葉県

活動先（県名・市町村名）：宮城県石巻市

活動日時（日付）：4月2日～4月6日

活動日数（実働日数）：5日間

【活動内容・連絡事項】

4月2日から6日まで石巻へ行ってきましたので報告いたします。今後行かれる方の参考になれば幸いです。状況は日々変化しています。最新の情報を入手して現地に向かってください（どこの地域でも同様です）

石巻高校 救援本部 薬剤師班に参加

日和山という石巻市の中心部にある小高い山の上であり、施設は津波被害を受けていない。電気、水道はあるがガスは通じていない。本部にLANは来ていない。携帯はAUの電波状態がなぜか悪い（ほとんど不通らしい）。ソフトバンク（iPhone）は支障無かった（本体内）。自衛隊の支援部隊が来ている。食事は支援を受ける事もできる。

●気候：

暖かくなってきている。朝晩は冷えるが寝袋とマット（床に寝るので冷える）、毛布（本部に有り）があれば大丈夫。昼間はセーターとウインドブレーカーで良いのでは（天気によるが）。

●道路事情：

日々、目覚ましい変化が見られる。メインの通りは通行に支障がない程度までがれきの撤去が進んでいる。一部冠水する場所があり、潮の満ち引きによって通行困難になる。朝は、市中心部に向かう車で、夕方は郊外に向かう車でメインストリートは大渋滞を起こす。

石巻に向かう高速道路は開通しているが、路面に段差があり注意が必要。（東北道は那須を過ぎた当りから段差が目立ち始める。常磐道はいわき一水戸間、磐越自動車道は全線に渡り段差が見られる。制限速度50km規制は納得できる。

ガソリン事情はかなり改善されている。ただし、現地入りするときは満タンにしてから入るべき。4月2日は那須高原 SA までは満タン給油ができました。それ以降は制限付きです。私は那須高原で満タンにし、菅生 SA で追加給油を行い現地入りする予定でしたが、残念でしたが菅生 SA でガソリンの売り切れを告げられました。入れる事ができる SA では少量でも継ぎ足して行った方が良いかもしれません。

石巻市内のガソリンスタンドも営業を再開している所が出てきました。4月4日の早朝に見たときは営業を待って車列が続いていましたが、5日6日は逆に営業している事を宣伝している

スタンドも見受けました（高いですが）。パンクには注意が必要です。応急パンク修理用品を持ち込んだ方が安全でしょう。

●目標：

臨時診療所に置ける調剤業務 避難所のサポートとして衛生管理の指導（うがい指導、消毒指導、トイレ管理）、OTC 供給、健康状態チェック

●イベント：

- ①石巻日赤における調剤業務支援（4月5日終了 日赤内での支援体制の充実による）
- ②臨時診療所に置ける調剤業務（石巻高校、専修大学石巻校、女川町立病院、女川総合体育館、渡波小学校）（渡波小学校は4月5日終了）
- ③市内 200 か所の避難所訪問支援 女川町 牡鹿半島地区 雄勝地区の集落、避難所への支援訪問
- ④メロンパン部隊での同行、処方薬剤の確認
- ⑤医療支援チームで薬剤師のいないチームへの薬剤師の供給

●必要薬剤師数：

- ①3名
- ②各診療所に1～3名
- ③1チーム2～3名（車一台）
- ④要望に応じて2名くらい
- ⑤要望に応じて2名くらい
- ⑥その他：予備＋リーダー 各1名（本部にて連絡）

●活動内容

②石巻高校内診療所での調剤業務

津波により壊滅状態の石巻市立病院医師と診療所が壊滅であるが助かった医師が高校のなかの相談室で診療所を開設しており、そこでの調剤業務を手伝う。1日100人くらいの方が受診される。

調剤に関しては、地元の先生が2人、市立病院前の会営薬局の薬剤師が1人入り、そこに1人くらい支援に入る。基本的に後発品はなしで、先発品で対応、また薬品の読み替えなど、薬剤師に責任と裁量で任されてる。また薬剤の仕入れも始まっており、問屋2社により供給（石巻市当ての伝票）。慢性疾患などの希望は医師がほとんど、聞き取りで同様のものを処方、それに対応していく。手書き処方箋・手書き薬袋でPTPにより投薬。

②専修大学石巻校での調剤支援業務

専修大学石巻校にある臨時診療所の調剤業務。この診療所は赤十字が開設し、各地の赤十字が交代で入っている。診療は8時から17時（今後24時間かの話がある様子）我々には9時頃から15時頃までをコアタイムとして依頼される。赤十字はこのコアタイム時間に避難所巡回のチームを作り出かけ、診療所は石巻市立病院の医師2名、同看護師3名と医療事務（日赤）と支援薬剤師1名で運営する。

医薬品は7日程度の診療所に用意されているものはその場で調剤を行い投薬（簡易カルテにより調剤、手書き薬袋、基本PTP、小児に散剤（分包既製品）を手撒で分割も行った）。常用医薬品は処方箋を発行、日赤石巻HPで調剤を受け2～3日後に受け渡しを行う（4月5日からは日赤石巻HP周辺薬局において調剤されたものが届いた）。各地の日赤が各々で準備した薬袋が使用されていたため非常にバラエティーにあふれた薬袋だった。

③市内200か所の避難所訪問支援 女川町 牡鹿半島地区 雄勝地区の集落、避難所への支援訪問

人口22万人の宮城第2の都市であるが、周辺市町村を合併し非常に面積の大きい市になっている（女川町は原子力発電所があり合併に参加しなかった）。中心部以外の人口も多いが、海岸部はリアス式海岸の入り江毎に集落があり避難所が設けられている。そのため小・中規模の避難所が散在している。

基幹避難所はモノがあふれている。小・中規模の避難所へのフォローを開始する。避難所開設の情報を得て訪問し、持参したOTCで対応を行い、不足支援ないよう聞き取り次回訪問時に供給する手配をとる。また、石巻高校本部の連絡先を伝えいつでも連絡ができる事を知らせる。トイレ等の衛生状態を確認し、消毒の指導等を行う。周辺の避難所の存在・状況について情報提供を受ける。

避難所での食事、それは炭水化物（米・パン）が中心でそれ以外ほとんど支給されず、十分な量はない。栄養管理が必須で、ビタミン剤の配給をして被災者への投与をお願いしている。

石巻市市街地以外の道路事情はかなり悪く、至る所でひび割れ、段差、落石が見られるがメインとなる道路のがれきは通行に支障がない程度にどけられている。

今訪問した避難所で億求められたものは、花粉症対策（点眼・点鼻薬）、手荒れ予防・治療のためのハンドクリーム（消毒薬を多く使うので手が荒れる）炊事用手袋 歯ブラシ、歯磨き。

※私の参加した雄勝地区と牡鹿半島地区について

<雄勝地区>

医療の中心であった市立雄勝病院は津波により3階建ての建物が飲み込まれスタッフ・患者は絶望と見られているようです。

高台に避難所があり6カ所を訪問した。一部民家を利用した避難所はそろそろ解散する見込みであるとの情報。大須小学校が地域の中での大規模避難所になり、自衛隊の支援、赤十字による診療所の開設があった。生命支援から生活支援へと変わりつつある。気温が高くなり花粉症対策（結膜炎、鼻炎）、消毒薬使用による手荒れ対策が今後の課題。巡回診療も行われている避難所を訪問した所、「チモプトールの手持ちが無くなった」と相談を受けた所、巡回の眼科 チームに会い支援をつないだ事もあった。

<牡鹿半島地区>

市立牡鹿病院が診療を開始している。常用医薬品については病院より供給を受ける事ができている。私が携わった前日に訪問したときに要望があった物品を届ける業務と未訪問の避難所を探し訪問を行い計12カ所伺った。インドネシアからの研修生が10数名いるとの情報を受けて訪問したが、地震後数日で本国および大使館から救援が来て大型バスで既に帰国したとの事だった。ここも、生活支援が重要になりつつある。

生活用水は川より引いていて豊富、飲料水は配給。電気はまだ来ていないが訪問途中で復旧作業が急ピッチで進められていた。

④メロンパン部隊での同行、処方薬剤の確認

地元医師、看護師、事務、薬剤師でのチームで避難所をまわり、診療にあたるが、医師は処方せんを発行、その際、薬剤のチェックすることと、その処方を地元薬局へ誘導する（残った地元薬局の業務を支援する）。メロンパンチームより避難所支援の要請が入る事もあり（メロンパンチームの名前の由来：発足当時、配給される食品が連日”メロンパン”であったため頭に浮かんだのが「メロンパン」だった：●●先生談）。

●感想

今回、災害支援活動に参加しとても貴重な体験をさせていただいた。薬剤師とは何か、医療とは何か、医療の中で薬剤師は何ができるのか、考えさせられました。避難所訪問をしているときに同行してくれた石巻市薬剤師会のFAXコーナー職員の方（道の案内、情報収集の手助け（高齢者の言葉が・・・））から震災時の話をお聞きする事ができました。子供の精神状態が不安定になっていると伺いました。今後の課題になるのではないのでしょうか。震災発生後3週間は生命をいかに維持するかに対する支援が求められましたが、これからは嫌でも長くなるであろう（避難所）生活を支援するものによって変わって行くのではないのでしょうか。生活支援は薬剤師がその本領を発揮する事ができる事だと感じました。例えばトイレの不快感を軽減する事によってトイレに行く事が億劫にならなくなれば便秘も防げ、水分もしっかりとってもらえるようになるとの考え方からトイレ衛生の管理指導を行うのは薬剤師ならではの活動でしょう。飲料水が配給（給水車）に成っています。手洗いは水ではできませんがアルコール消毒で手を消毒しています。そのため手の荒れが進んでいます。こちらへの対応が求められています。しかし、手の消毒についてはどこの避難所でも徹底していました。うがいについても水を使うので実施はしていますが非常にナーバスになっています。

復興活動は急ピッチで進んでいます。日本の土建屋さんの実力を見た気がします。道を走ると至る所に亀裂、段差が見られますが通常走行に支障がない程度にこの3週間で復旧してしまいました。電信柱も次々と立てられています。がれきの中に新しい電信柱の列ができ、電線がつながってりどんどん伸びている姿は復興活動のシンボルでしょう。

ボランティア派遣について気になる事を耳にしました。日薬を通じて派遣された北信越の先生から、「日薬（東京）に行ってトップから直接指示を受けるために丸一日支援に入るのが遅れてしまった。その為に活動日数も一日損している」というものでした。実態はどうなっているのでしょうか？

雑駁な報告ですがあげておきます。

災害支援活動報告 20

J-HOP ML 4月8日 05:49

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：不明

活動先（県名・市町村名）：宮城県石巻市

活動日時（日付）：不明

活動日数（実働日数）：不明

【活動内容・連絡事項】

津波警報の音声案内が響き、市内騒然。東西南北に車がるのを、5階の非常階段で寝間着で躊躇してました。結局居残り決断で部屋に。うすら明かりの非常灯が次第に力を失っていく中、ミッション終了の疲労にて難なく眠れました。

恵まれた好天気、避難所から半壊の自宅に帰られる人々が増えていました。この揺れでの2次、3次の被害がないことを祈っています。

石巻にて。

災害支援活動報告 21

J-HOP ML 4月10日 21:49

Ver110410 福島県北エリア情報.xlsx

※本資料集への掲載準備が整っていないため、MLをご参照ください

災害支援活動報告 22

J-HOP ML 4月11日 08:52

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：北海道

活動先（県名・市町村名）：宮城県石巻市

活動日時（日付）：3月17日～3月22日

活動日数（実働日数）：6日間

【活動内容・連絡事項】 4/11 08:52

3月17日から22日まで石巻にて活動してました。

私はいわゆる100円パソコン（バッテリーは大きいものをオプションで購入し装着済みでした）

とドコモのデータカードを持って行って結構重宝しました。参考までに。

<http://www.nttdocomo.co.jp/product/data/105a/index.html>

避難所で住民の方に開いている薬局の情報を求められたりしたとき、県の薬務課のサイトを見て電話して確認したり出来ました。

災害支援活動報告 23

J-HOP ML 4月11日 10:23

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：高知県

活動先（県名・市町村名）：福島県福島市

活動日時（日付）：4月5日～4月8日

活動日数（実働日数）：4日間

【活動内容・連絡事項】

福島県北エリア派遣報告 第二回

派遣期間：2011年4月5日火曜17:00～4月8日金曜13:30

派遣場所：福島市

1：生活状況：福島県北エリア

ガソリン：99%正常化。緊急車両でなくても潤沢に給油可能。レギュラー155円/l。

水、食料、電気、ガス：問題なし。宿泊施設有。（風呂、布団完備。寝袋不要）

雪：避難所のある地区は問題なし。道路にも冠雪ないのでノーマルタイヤですべてOK

道路：福島市内周辺は通行止め区間無し。原発30km圏内は立ち入り制限あり。

服装：真冬のような厚着不要。春用で考える。靴：普通のスニーカーで十分。

2：県北エリア避難所

避難所収容人数：3/29：8600人⇒4/8：6400人と減少。

避難所（これがすべてではありません）	3/29 (人)	4/8 (人)
あづま総合運動公園	1300	1000
パルセいいざか	473	341
福島自治研修センター	350	200

福島市内高校（北高校、立花高校、工業高校、高校、東高校、西高校、南高校、商業高校、明成高校）	合計 791	合計 467 高校授業再開のため、4/11 月曜までにすべて別の避難所に移動予定
--	--------	---

ただし、これは自宅に帰れたのではなく、近隣の温泉宿、ビジネスホテルそして県北エリア外の市町村に移ったため。

温泉宿やビジネスホテルに移った方々のフォローが難しくなる可能性がある。

また、高校体育館を出た方の行先は 4/10 日曜 P m 6 時の県北保健所におけるミーティングではっきりすると思われる。（あづま、パルセが再び増える可能性もある）→昨夜のミーティング内容の報告で確認する。

3：県北エリアに派遣された薬剤師の主な仕事内容

①あづま、パルセの避難所における常設薬相談所での活動。

②慈恵医大との同行避難所訪問。

※①②いずれも健康相談、薬相談、調剤、OTC 譲渡、お薬手帳の普及など。

※調剤印（日付、調剤済、氏名の入ったもの）、マジック、はさみ、輪ゴム持参をおすすめ。

薬袋は福島県薬剤師会にあるので、必要に応じて補充する。派遣薬剤師が考えて申し出ること。

※不明医薬品の鑑別は震災後 1 か月近くの経過とともに激減。鑑別結果を薬手帳に残しておくことが重要。

③未フォロー避難所への薬剤師会単独訪問によるお薬相談、手帳の普及

県北保健所の要請により、4/10 日曜より開始予定。薬剤師ボランティアの数が多いときに集中的に行う。

4：今後継続して行っていくことが必要と思われる事項

①県全体の状況把握

情報収集係：各地元の会員&派遣ボランティア。

福島県北、会津、郡山、いわき、相馬などの各地区からの県薬災対本部への情報収集。

できれば日々レポート⇒状況把握⇒分析⇒対策がベスト。

②県下の各保健所と地元薬剤師会との連携

朝もしくは夕方に会議が行われているはず。そこに必ず出席する。

そして以下の情報を収集し、地元薬剤師会はもちろんのこと、派遣薬剤師も情報を共有する。

1) 避難所の場所と非難人数

2) 巡回医師情報（いつ、どこのチームが、どこを回るかは表にして保健所経由で薬剤師会も把握している）

3) 支援医薬品内容の把握（各保健所がエクセルファイルで持っているもので、必ずもらう。※福島県薬作成の別添エクセルファイルに 4/8 時点の情報は有り）

③ ①②で収集した情報の活用と共有（福島県薬、市薬、日薬、派遣担当県薬⇒派遣薬剤師）

目的3点

- 1) 派遣ボランティアの数の適正化（充足しているか不足しているか）
- 2) きちんとした申し送り（事前に情報を各県に流しておくで引継ぎがスムーズになる）
- 3) 今後の見通しを考えるため

5：今後の見通し

原発問題が解決の見通しが立たず、避難所生活が続く可能性が大きい。

ただし、小規模避難所の集約は進んでいくと思われるが、小規模避難所のほうがお薬相談や手帳の普及はフォローしやすいので、今のうちの手厚くやっておくとよいのではないだろうか。地元薬剤師と派遣薬剤師の連携で、細かいフォローが必要と考える。（これは医師との同行では時間が不足するので、それとは別枠で計画実行したほうがよいと思う）

一番大事なのは日々の情報収集と分析であると感じる。各避難所のニーズを保健所との連携でしっかりと把握し、適正なフォロー体制を薬剤師会で熟慮していくと素晴らしい働きができる。

災害支援活動報告 24

J-HOP ML 4月13日 08:35

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：福岡県

活動先（県名・市町村名）：宮城県本吉郡南三陸町

活動日時（日付）：不明

活動日数（実働日数）：不明

【活動内容・連絡事項】

今回の薬剤師ボランティア活動で、南三陸に行ってまいりました。

九州・山口地区合同のグループで石巻、南三陸、気仙沼に分かれて行ってきました。情報が色々あると思いますので、簡単に現在の南三陸の状況についてお伝えいたします。今後行かれる方がいらっしゃれば、参考になればと思います。

●南三陸町ベイサイドアリーナ（避難所）

ライフラインは壊滅的で、現在も復旧しておりません。水、電気、ガスすべてありません。電気は自家発電機で、18時から20時半まで救護室のみ点灯するだけになっております。

食事は好意により三食配給を頂きました。水は前の方々置いていったものがたくさんあったので、飲用としては問題なかったと思います。携帯するのであれば、現地に入る前に500mLのペットボトルを数個購入して行くといいと思います。

水道が復旧していないため、排便後の手洗いが充実していません。また、周知徹底も現段階では不足しておりますので、嘔吐・下痢を主訴とする感染性胃腸炎が流行しつつありました。幸いなことに今のところノロウイルスの検出はありませんでした（今後は出てくるかと思いません）手の消毒と靴の裏の消毒を徹底する必要があります、それを避難所みなさんに知って頂く事が必要かと思えます。

業務は主に調剤とOTCの販売、在庫整理を行っておりました。

細かい情報は書くときりがないので、簡単に書かせて頂きました。今後は、慢性的な精神疾患のケアと衛生状態の管理が重要になってくるかと思えます。

最後になりますが、今回被災地に入って日本人であることに改めて誇りを持ってました。被災地の方はお互いに助け合って、笑顔を忘れずに過ごしたいと言っておられました。全国から集まってくるボランティアの方たちもとても意識が高かったと感じました。同じ時期に宮城入りしたJ-HOPの会員の方たちには本当にお世話になりました。この場を借りて、再度御礼申し上げます。ありがとうございます。

災害支援活動報告 25

J-HOP ML 4月15日 09:15

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：大阪府

活動先（県名・市町村名）：岩手県釜石市、上閉伊郡大槌町

活動日時（日付）：不明

活動日数（実働日数）：不明

【活動内容・連絡事項】

昨夜岩手花巻発の飛行機で帰って来ました。私が伺った釜石・大槌に限定して言えば、被災地のネット環境はさほど良好ではなく、原則、事前にダウンロードしたものが頼りです。それも充電環境あればこそこの話で、実際は記憶と紙と耳だけを頼りに動いて来ました。

釜石では毎日17時から1時間、駅前の施設で対策本部会議が開かれています。行政も自衛隊も日赤もJMATも各都道府県主導のチームも医師会も薬剤師会も、その日の現地情報が欲しい人・伝えたい人は全員やって来てありったけの情報を出し合います。オープンなので誰でも聞けると思います。そこでは紙情報ですら不十分です。頼りは耳と記憶だけです。「今日、現場で汲み上げてきた事」を何のペーパーもなく皆が怒涛の様に即興報告し合うので。

なので、ニーズがあればこの会議で叫ぶのが一番早いと思います。各施設での決定権を持つキーパーソンは必ず参加しておられるし、「他にどなたか報告のある方はいらっしゃいませんか」と機会も設けておられます。今夜叫べば明朝の各々の行動には確実に反映されます。「時間との戦い」「体力との戦い」には強いかも知れません。

全ての情報を文字におこして紙にまとめる程の余裕はないので、現場でデータを残すのはせいぜいデジカメの映像ですが、1～2日も経つと、それがどこの写真だったか自分が何を記録したかったかサッパリ分からなくなってしまいます。どこかに報告解説を併記可能な形で、記録写真をアップできる環境は作れないものでしょうか？

災害支援活動報告 26

J-HOP ML 4月15日 16:15

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：栃木県

活動先（県名・市町村名）：福島県相馬市

活動日時（日付）：不明

活動日数（実働日数）：不明

【活動内容・連絡事項】

こんにちは！

今、福島県の相馬市に入っています。相馬市では、毎朝

8時30分～9時

17時～18時

の2回打ち合わせがあります。多職種連携は非常にうまくいっています。

災害支援活動報告 27

J-HOP ML 4月16日 05:39

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：栃木県

活動先（県名・市町村名）：福島県相馬市

活動日時（日付）：4月14日～4月16日

活動日数（実働日数）：3日間

【活動内容・連絡事項】

一昨日から、福島県相馬市に入っています。

相馬市では、海沿いは壊滅的な打撃を受けていますが、それ以外は、建物に多少の被害があるものの、ライフラインは回復しています。避難所は縮小傾向、閉鎖される場所も出てきています。ただ、避難者は今後、飯坂温泉に向かう方が増えるようですが、飯坂温泉での医療や介護は、避難者が、多くの旅館等に分散してしまうので、今よりサポートが困難になる事が懸念されています。

今日現在では、9カ所の避難所で1,700名以上の方が過ごされています。内2カ所の比較的大規模な避難所に臨時診療所が開設されており、各県等からのJMAT（医療チーム）等が分担して診療しています。

薬剤師は各JMATにはいませんので、日薬から派遣されている、各県の薬剤師が分担して対応していますが日によっては、薬剤師が間に合っていない日があります。栃木県薬部隊は、昨日は1カ所の避難所で調剤、服薬支援等を行い、昼休みの時間帯を利用して、市内の全避難所を確認しました。多職種からは「薬剤師が来てくれて、非常に助かる」と大変喜ばれました。相馬では、多職種連携が非常にうまく回っていると感じました。避難所の備蓄薬が不足気味でしたので、昨日は原発から30Km圏内にある、相双保健福祉事務所まで、不足の医薬品を取りに行ってきました。

また、昨日の業務終了後、相馬市から約45kmほどの宮城県名取市にある薬局を訪問してきました。元気そうでホッとしました。以上、2日目までの報告です（詳細は添付ファイルと写真にて）。今回のボランティアももう一日です。頑張ります！





ボランティア活動報告書（日報）4月14日（改）.xlsx

※本資料集への掲載準備が整っていないため、MLをご参照ください

災害支援活動報告 28

J-HOP ML 4月18日 07:36

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：埼玉県

活動先（県名・市町村名）：福島県いわき市

活動日時（日付）：4月3日

活動日数（実働日数）：1日間

【活動内容・連絡事項】

4月3日にいわき市に行って災害ボランティアを行ってまいりました。今回はその報告をいたします。私は福島県の出身です。東日本大地震で知人の多くが被災しました。これでも一応薬剤師なので正式に薬剤師の災害派遣に登録すると同時に個人的に故郷の仲間をどうしても支援したいという気持ちでもやもやしておりました。そこでいろいろなつてを頼ってなんとか原発の風評被害の大きないわき市の支援をすることが出来たのです。

当時はガソリンの給油制限もあり人も物資もまだまだ足りていない状況だったのでいわき支部の薬剤師会長の長谷川祐一さんも非常にありがたいと電話でおっしゃって下さいました。友人の薬剤師と一緒に夜中に常磐高速を走り、現地近くのパーキングエリアで仮眠しました。周りは自衛隊のトラックや原発の消火用の資材の緊急車両がほとんどです。

集合時間まで時間があつたので沿岸部を廻りましたが、津波の被害は甚大で非常にすさまじい光景が広がっています。この時点で水道・ガスの復旧はしておらず約3400人が40箇所の避難所での生活を余儀なくされています。



いわき市沿岸部



沿岸部の道路は陥没したまま

災害派遣の基地はいわき市医師会館で、そこには全国から災害派遣DMATやJMATチームが全国から集まってきています。薬剤師ボランティアも愛知や茨城から今まで最大の20名が一番苦しんでいるいわき市の支援に名のりをあげました。愛知県医師会から医薬品の緊急輸送があり、現地はそれなりに薬剤の提供が可能になっています。



いわき医師会館の薬剤管理区域

薬剤師ボランティアの活動は主に2つあります

- 1) JMAT医療チームに組み込まれて避難所を巡回し、調剤と薬剤交付を行う
- 2) 避難所の衛生環境の調査およびOTC医薬品の配布

私の場合は幸い両方を経験することが出来ました。

たまたま私の参加したJMAT京都医師会チームは医師2 看護師1 薬剤師3という贅沢なメンバー構成なので非常にスムーズに避難所を廻れます。薬剤師不在のチームの場合は患者さんが記憶しているまたは持参している薬剤の識別に時間がかかってしまうからです。

今回の編成では

- 薬剤師1 患者さんの持っている薬剤の識別
- 薬剤師2 JMATが持参してきた薬剤とのマッチング。不足の場合のは本部との連絡
- 薬剤師3 調剤と服薬説明



JMAT 京都医師会チーム



避難所での薬剤交付の様子

今回のように処置を必要とする急性期の患者がほとんどいない場合は薬剤師が主役になっても良いと思われま

す。避難所の衛生環境のチェックも重要で震災関連死をどれだけ防げるかが地域の薬剤師としての力量を問われます。

津波から3週間が経って細菌を含んだヘドロが乾燥して街中に舞うようになると細菌性の肺炎が流行する可能性があるので、消毒・手洗い・マスク着用の徹底を各避難所のリーダーや役所の責任者をお願いをすることになります。



避難所の衛生環境のチェックのための荷物の積み込み



入口付近のアルコール手指消毒スペースの確認

このように8:30から18:30まで充実した時間を経験させて頂きました。ご自身やご家族や知人の方が被災されて大変な思いをされている方もいらっしゃると思いますが、是非このような災害派遣の医療者へ何か協力することもひとつの支援の形ではないかと考えます。皆さんもいかがでしょうか？

災害支援活動報告 29

J-HOP ML 4月18日 07:36

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：埼玉県

活動先（県名・市町村名）：福島県郡山市

活動日時（日付）：4月17日

活動日数（実働日数）：1日間

【活動内容・連絡事項】

4月17日福島県郡山市で災害ボランティアを行ってまいりました。原発避難の富岡町の方を中心に1800名が避難されている郡山市の支援をいたしました。

郡山市のライフラインはほぼ復旧しています。他の地区の避難所とは異なりここは24時間の常設の救護所があるのが特徴です。臨時的診療所も時間を決めて開かれるのでそこでの調剤と薬剤交付がメインの仕事です。

郡山市内は県で管理している避難所単位の情報が乏しく、地元や県の薬剤師会の応援が一步遅かったようで富岡地区の保健師さんがOTCなどの管理もふくめて奮闘されています。平時からの多くの職種の方との地域交流というのも重要な仕事であると痛感しました。以上。



ビックパレット福島



臨時診療所



埼玉県薬 神奈川県薬 地元郡山薬剤師会



仮設調剤棚

災害支援活動報告 30

J-HOP ML 4月18日 20:09

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：栃木県

活動先（県名・市町村名）：福島県相馬市

活動日時（日付）：4月14日～

活動日数（実働日数）：不明

【活動内容・連絡事項】 4/18 20:09

お世話になります。

MLで頂いた、手洗いのポスターを、先週私がボランティアで行かせていただいた相馬市内の9カ所の避難所に、保健師の方にご協力いただいて、掲示させていただきました。

衛生環境が非常に悪い中で、大変喜ばれました。ありがとうございました。

今後とも、よろしくお願いいたします。

災害支援活動報告 31

J-HOP ML 4月19日 18:57

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：新潟県

活動先（県名・市町村名）：宮城県石巻市

活動日時（日付）：不明

活動日数（実働日数）：不明

【活動内容・連絡事項】

初めて投稿させていただきます。●●先生の考えにすごく共感し思わず投稿してしまいました。

自分が石巻を後にしてから1週間。自分の上司が石巻から昨日帰ってきました。●●先生が石巻で言っていた通り上司の話によると今は慢性疾患の時期になっているようです。

今後在宅のノウハウは絶対に現地で必要になると強く思います。何の参考にもならない投稿失礼致しました。

災害支援活動報告 32

J-HOP ML 4月20日 10:35

Ver110420 福島県情報（福島、郡山、相馬）.xlsx

※本資料集への掲載準備が整っていないため、MLをご参照ください

災害支援活動報告 33

J-HOP ML 4月21日 18:38

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：山形県

活動先（県名・市町村名）：不明

活動日時（日付）：4月9日～4月10日、4月16日～4月17日

活動日数（実働日数）：4日間

【活動内容・連絡事項】

お世話になっております。山形県から書き込んでますので、若干のズレがあると思いますが、ご了承下さい。

16,17日に参加した時には、電子レンジが追加されていました。ソフトバンクのルーターが1個ありました（10日に山形チームで置いていったものかな?）。

18,19日に参加した山形チームの方に聞いたところ、暴風雨で冠水が酷かったようです。車高の高い車が良いようです。宮城と山形の県境（蔵王近辺）は、積雪が有りました。宮城の海側は、積雪は無いでしょうが、ここ2~3日寒いようです。イオンへ行きました。食品売り場のみの開店ですが、ひと通りは揃っていました。

22日の夜から石巻高校へ入ります。先ほど電話確認したところ、冠水は以前より酷いとのこと。薬剤師会用としてのコピー機は設置されていないようです。16,17日にコピー機を山形から持ち込みました。今回も持ち込みます。残念ながら、24日に持ち帰ってしまいます。

以上です。今週末お世話になります。宜しくお願いいたします。

がんばろう日本！

災害支援活動報告 34

J-HOP ML 4月22日 09:15

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：不明

活動先（県名・市町村名）：宮城県石巻市

活動日時（日付）：4月10日～

活動日数（実働日数）：不明

【活動内容・連絡事項】

私は10日から石巻に入り、昨夜、一時帰宅してまいりました。25日に再度、職員の薬剤師をともなって現地（遊楽館：福祉的な避難所）に戻る予定です。

わたくしは、インターネット環境に困りませんでした。PCについて無知なために正しい用語で説明はできませんが、USBタイプのAUを購入しました。すぐに購入できて、USBに差し込めば勝手にインストールされ、すぐにインターネット回線がつながる優れものです。

もしご購入希望でしたら、AUにきいてみてくださいませ。

災害支援活動報告 35

J-HOP ML 4月22日 16:02

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：不明

活動先（県名・市町村名）：宮城県本吉郡南三陸町

活動日時（日付）：4月8日～4月11日

活動日数（実働日数）：4日間

【活動内容・連絡事項】

J-HOPで南三陸町の情報をととのことですが、簡単にご報告させていただきます。

私は4/8～4/11、南三陸町最大の避難所であるベイサイドアリーナでボランティア活動をしてきました。

まず、ライフラインは完全に途絶えています。水道、電気、ガス全て使えません。しかし、自衛隊が設置した無料のお風呂がありますので、時間交代制で入る事は出来ます。私も一回だけ入りました。支援物資は、体育館に入りきれないほどありましたが、仕分ける人が少なく十分に活用されず、必要なものが必要なところに届いていない感じがしました。

ベイサイドアリーナでは主に T-MAT を中心とした医療チームが常駐しており、避難所にいらっしゃる被災者の方の治療にあたっております。

ベイサイドアリーナ内の救護所では、志津川病院の出張所のような形式で薬局を開設しております。基本的に T-MAT の先生方が処方される処方箋にのっとして調剤を行い、加えて OTC の受け渡しを行い、健康相談なども兼ねます。救護所は基本的に 9 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0 までですが、1 7 : 0 0 以降も緊急の患者さまに関しては随時受け付けを行っております。T-MAT の先生方が、交代で当直を行い、薬局の方も当直を行っている状況でした。

その他、朝、夕方に南三陸町の各地域を回っておられる、J-MAT や D-MAT のチームの必要となる薬の払い出しを行っております。

みなさんもお存じかとは思いますが、南三陸町では町全体が壊滅的な被害を受けており、かろうじて自宅が残っている方々も、ライフラインの復旧が見込めないために、家に戻らずに避難所で生活をしている状況です。私が帰るころには、ノロウイルスの流行の兆しが見られており、予防のために感染が疑われるものが出た場合は、家族ごと隔離して様子を見るという方法を取られていました。やはり、トイレの状況が劣悪で手も洗うことができないため、感染の拡大を防ぐことは難しいと考えます。ノロウイルスの感染予防の周知徹底を行うため、日薬と連携して手の消毒が大事なことを伝えるポスターを作成して頂き、次の班に託しました。

リアルタイムで南三陸町の情報は手に入れることができます。現在はイスラエル医療チームの跡地で志津川病院の診療所ができています。170~180 人くらいの患者様が毎日訪れ、大変人手が不足しているようです。ベイサイドアリーナ内の薬局もまだ患者様が訪れているようで、昨日はしているようです。地域を回っている J-MAT や D-MAT の払い出しもベイサイドアリーナ内で行っているようです。現在のところ、ベイサイドアリーナに 2~3 人、診療所に 5~6 人体制でやられているようです。

非常に過酷な状況になっているようです。私が行った時は、和歌山県薬剤師会が会長を筆頭として、先に入っておられました。その後山形県薬剤師会からも応援が来ていました。

災害支援活動報告 36

J-HOP ML 5月2日 09:17

【支援者情報】

職種：薬剤師

住所（都道府県）：栃木県

活動先（県名・市町村名）：福島県相馬市

活動日時（日付）：4月30日~5月1日

活動日数（実働日数）：2日間

【活動内容・連絡事項】

皆さん、おはようございます！

週末に相馬市に2度目のボランティアに行ってきましたので、報告書を添付します。ご参考になれば幸いです。

報告書は、前回の物に追記していますので、今回記載部分は4月30日、5月1日、4月30日～5月1日まとめの部分になります。相馬は、原発の風評被害もあり、一般のボランティアは、ほとんど入っていない感じでした。したがって、瓦礫もまだまだ大量にあり、打ち上げられた船もそのままです……。

災害支援活動報告 37

J-HOP ML 5月2日 09:17

Ver110416 福島県北及び東エリア情報 .xlsx

※本資料集への掲載準備が整っていないため、MLをご参照ください